

インドネシア共和国
農業経営改善のための農業普及員訓練計画
終了時評価調査報告書

平成 18 年 10 月
(2006 年)

独立行政法人 国際協力機構
インドネシア事務所

イネ事
JR
06-011

序 文

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、インドネシア共和国（以下、「インドネシア国」）政府の要請に基づき、「地域優良技術の発掘とその普及」を基本とするボトムアップの参加型普及アプローチを、普及員への研修を通してインドネシア国の農業普及サービスに導入することを目的として、2004年1月より3年間の予定で、技術協力プロジェクト「農家経営改善のための農業普及員訓練計画」を実施してきました。

この度プロジェクト終了を2007年1月に控え、2004年1月から2006年9月までの各活動の経緯と実績を確認し、プロジェクト目標・成果の達成状況の見通し、それらに影響を与える要因等についての評価を行い、調査団としての提言をまとめることを目的に、2006年9月4日～15日まで終了時評価調査を実施しました。

同調査期間中に、インドネシア国政府関係機関と共に、現在までのプロジェクトの実績確認を行うとともに、プロジェクト終了までの提言をまとめ、協議議事録（ミニッツ）の締結を行いました。

本報告書については、終了時評価調査の結果をより詳細に取りまとめた内容となっております。本報告書が、本プロジェクト終了を控えてこれまでの活動の成果を確実なものとし、また他の類似案件に対するの参考資料となることを願うものです。

終わりに、本調査にご協力とご支援を頂いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

2006年10月

独立行政法人国際協力機構
インドネシア事務所
所 長 加 藤 圭 一

目 次

序文

目次

写真

プロジェクト対象地域位置図

略語一覧

評価調査結果要約表

第1章	評価調査の概要	1
1-1	プロジェクト実施の背景	1
1-2	調査の目的	1
1-3	調査団の構成と調査日程、面談者	2
1-4	評価対象プロジェクトの概要	3
第2章	調査の方法	5
2-1	評価設問の設定とグリッドの作成	5
2-2	情報・データ収集	6
2-3	データの分析とレポート作成	6
2-4	調査の制約・限界	6
第3章	調査の結果（プロジェクトの実績）	8
3-1	日本国側の投入実績	8
3-2	インドネシア国側からの投入実績	9
3-3	活動の実績	11
3-4	プロジェクト実施プロセス	12
第4章	5項目評価による評価結果	15
4-1	妥当性	15
4-2	有効性	16
4-3	効率性	20
4-4	インパクト	22
4-5	自立発展性	23
第5章	結論と提言	26
5-1	結論	26
5-2	提言	26

付属資料

1. プロジェクトで取り組まれた MP3 研修手法の概要
2. 地方調査における主要面談者リスト
3. 評価グリッド
4. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 最終版
5. 主な参考文献・資料リスト
6. プロジェクト期間中に実施された研修・セミナー
7. プロジェクト概念図
8. 前プロジェクト (PIAETS) の研修を受講したバンドン県普及員によるその後の活動についての調査結果 (要点)
9. 最終評価調査結果に関するミニッツ

写 真



写真1 農業人材開発庁訓練開発局
(局長・C/P インタビュー)



写真2 農業省国際協力局表敬



写真3 東ジャワ州バトゥ農業教育訓練センター
(教官へのインタビュー)



写真4 東ジャワ州パスルアン県ト・サリ郡
(農民グループの圃場視察)



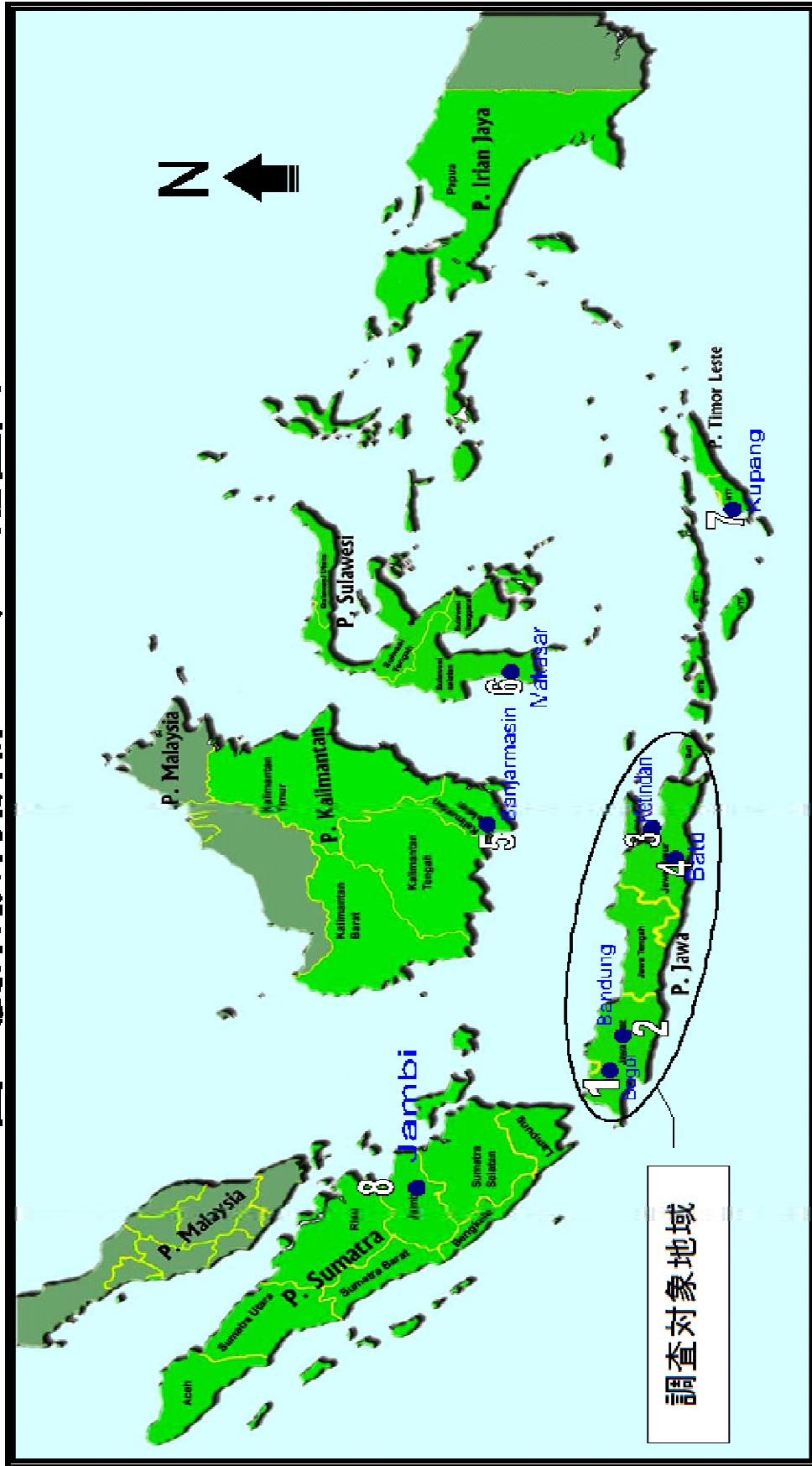
写真5 東ジャワ州グレスク県メンガンティ郡
(農民グループへのインタビュー)



写真6 西ジャワ州スバン県ビン郡
(優良経営農家の視察)

プロジェクト対象地域位置図

国立農業教育訓練センター配置図



略 語 一 覧

2KR	Second Kennedy Round	食糧増産援助：無償（貧困農民支援）
AAHRD	Agency for Agricultural Human Resources Development	農業人材開発庁
AWGATE	ASEAN Working Group for Agricultural Training and Extension	ASEAN 農業研修・普及のためのワーキンググループ
BATD	Bureau of Agricultural Training Development	農業訓練開発局
BBDA	Balai Besar Diklat Agribisnis	国立（高等）農業教育訓練センター
BDA	Balai Diklat Agribisnis	国立農業教育訓練センター
C/P	Counter Part	カウンターパート
FEATI	Farmer Empowerment through Agricultural Technology and Information	農業技術・情報伝達による農民エンパワーメントプロジェクト
JCC	Joint Coordination Committee	合同運営委員会
MAT	Moving Advisory Team	MP3 研修の助言・指導チーム
MP3	Metodologi Penyuluhan Pertanian Partisipatif (Participatory Agricultural Extension Method)	参加型農業普及法
M/M	Minutes of Meetings	会議議事録
PIAETS	Project for Improvement of Agricultural Extension and Training System	農業普及・訓練システム改善計画
R/D	Record of Discussions	討議議事録
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
P4S	Farmers Agricultural and Rural Training Center	農民の農業・農村訓練センター
PO	Plan of Operations	実施計画
PROPENAS	National Development Program	国家開発計画
TOT	Training of Trainers	講師訓練

評価調査結果要約表

1. 案件の概要			
国名：インドネシア共和国		案 件 名：農業経営改善のための農業普及員訓練 計画終了時評価調査	
分野：農業		援助形態：技術協力プロジェクト	
所轄部署：インドネシア事務所		協力金額：	
協力期間	R/D 締結：2003年10月29日	先方関係機関：農業省農業人材開発庁	
	実施期間：2004年1月5日 ～2007年1月4日	日本国側協力機関：農林水産省	
		他の関連協力：農業普及・研修システム改善計画 (1999年9月1日～2002年3月31日実施)	
1-1 協力の背景と概要			
<p>インドネシア共和国（以下、「インドネシア国」）の農業政策は、1990年代後半より「食糧増産」から「農家収入の向上」へ転換が図られ、農作物の付加価値の付与やマーケティングの強化といった近代的な経営指向による「儲かる農業」が奨励されるようになった。これに伴って、農民を直接指導する農業普及員の能力向上が重要と認識され、普及員には従来の農産物の生産技術指導に加え、市場の情報や農民組織の運営改善といったコンサルタント的な役割が求められることとなった。しかしながら、インドネシア国では、その様なニーズに対応できる様な、農業普及員の能力を組織的に向上させてゆくための訓練プログラムが未整備であった。こうした背景から、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）はインドネシア国政府からの要請に基づき、1999年9月から2002年3月まで西ジャワ州カユアンボン農業教育訓練センターをモデルとした「農業普及・研修システム改善計画（PIAETS）」の実施を支援し、地域内の先進農家の優良事例を発掘・分析し、普及教材にとりまとめて活用する参加型農業普及の新しい研修手法（「PIAETS手法」*）を開発した。</p> <p>インドネシア国政府は、PIAETSプロジェクトの成果を基に、アグリビジネス振興の政策に対応すべく、農民組織化やマーケティングといった新しい概念を取り入れることでPIAETS手法に基づく教材作成・指導手法を改善するとともに、バンドン県に限定された普及員研修プログラムを他県へも広めていくために、PIAETS後継プロジェクトとして本件技術協力への支援を我が国へ要請した。これに応え、JICAは2004年1月5日から3年間の計画で本件技術協力プロジェクトを実施してきた。</p>			
* 「PIAETS手法」は、本件プロジェクト開始後「MP3手法」（インドネシア語で「参加型農業普及研修手法」）という名称に改められた。			
1-2 協力内容			
(1) 上位目標			
MP3研修の実施を通して、選択地域（西ジャワ州スバン県・西ジャワ州スメダン県・東ジャワ州パスルアン県・東ジャワ州グレシク県・東ヌサテンガラ州クパン県・南スラベシ州ゴワ県・南カリマンタン州セラタン県）の農業経営が改善される。			
(2) プロジェクト目標			
改善された優良事例活用研修（MP3手法）を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する。			
(3) 成果（アウトプット）			
1) MP3手法研修プログラムが、カユアンボン農業教育訓練センターで改善される。			
2) 優良事例活用研修の講師訓練プログラムが、カユアンボン訓練センターで確立される。			
3) MP3手法研修プログラムが、選択地域で適用される。			
(4) 投入（評価時点）			
日本国側			
長期専門家派遣	3名（3年目から2名）	機材供与	12,492,000円
短期専門家派遣	2名	ローカルコスト負担	25,342,000円
研修員受入	7人		

相手国側：	
カウンターパート（以下、「C/P」）配置	10人
ローカルコスト負担	24億7,727.5万ルピア
その他	プロジェクト事務所（ジャカルタ、カユアンボン）、公用車
2. 評価調査団の概要	
調査者	団長・総括 花里 信彦 JICA インドネシア事務所 次長 評価計画 山根 誠 JICA インドネシア事務所 所員 評価分析 鈴木 篤志 アイ・シー・ネット（株） コンサルタント
調査期間	2006年9月4日～9月15日 評価の種類：終了時評価
3. 評価結果の概要	
3-1 実績の確認	
<p>(1) 本プロジェクトの投入は日本国側・インドネシア国側ともにほぼ計画通り実施された。</p> <p>(2) 成果3項目の達成度はいずれも高いレベルで達成される見込みであることが確認された。</p> <p>(3) プロジェクト目標の達成状況について、当初計画で示された最大7県を超える県においてMP3研修が実施されたが、研修に対する研修員評価と事後追跡調査の結果が回収されているのは、そのうち2県に過ぎないため、現段階では総合的な判定を行うことはできない。しかしながら、2県の調査、現地調査のインタビュー結果では、いずれも高い割合の研修受講普及員が研修の成果を活用していることが確認された。また、間接的な指標ながら前プロジェクトの追跡調査で示されたMP3研修を受講した普及員のサービスを受けた農民の反応等を見る限り、MP3手法による普及活動に対する農家の反応が高いことが確認されたことから、本プロジェクト目標の達成度は高いレベルに達することが期待される。</p> <p>(4) 上位目標達成の見込みに関しては、①PDMで示された上位目標とプロジェクト目標の間に論理的な飛躍があったこと、②農業経営の改善という大きな上位目標が達成されるためには、PDMには必ずしも示されていない他の多くの外部条件が満たされる必要があること、③プロジェクト活動の一環として上位目標へのインパクトを客観的に証明するための総合的な調査はまだ実施されていないことを理由として、今回の調査では評価することが困難であった。</p>	
3-2 評価結果の要約	
<p>(1) 妥当性</p> <p>インドネシア国では、長年にわたって食糧増産が最大の農業政策の課題とされ、農業普及サービスもこの目的を達成するために、トップダウンのアプローチで実施されてきたが、1990年代後半頃より、「付加価値の高い農業の推進」へと政策の焦点が移された。また、1999年には地方分権化が開始され、普及員のリクルートや、研修、資金の拠出等、農業普及に関わる多くの機能が地方政府（主に県）へ移管され始めた。この様な政策変化の中で、農民が抱える課題やニーズに的確に対応しつつ、地域の特性に合った技術を発掘・普及する、新しいタイプの農業普及手法を導入する必要性が高まった。本件プロジェクトは、「地域優良技術の発掘とその普及」を基本とするボトムアップの参加型普及アプローチを、普及員への研修を通してインドネシア国の農業普及サービスに導入することを目指して実施されたものであった。</p> <p>一方、日本国政府は、2004年11月策定の国別援助計画において、①民間主導の持続的な成長、②民主的で公正な社会づくり、③平和と安定という3つの重点分野を定めている。JICAは「国別事業実施計画」において、これら3重点分野を踏襲しつつ、5重点分野を定め、具体的な事業の実施計画を策定している。5つの重点分野のうち、本件プロジェクトは「貧困削減」に対する取り組みの1つとして位置付けられ実施されてきた。</p> <p>この様に、本件プロジェクトは、対象国政府の開発政策、日本国政府及びJICAの開発援助プログラムとの整合性は高く、また対象グループのニーズに沿った内容であったことから、妥当性は総合的に高いと判断された。</p>	

(2) 有効性

PDM で設定された 3 つの成果（アウトプット）は、協力期間中にほぼ達成される見込みである。当初計画で示された、最大 7 県という目標を超える県において MP3 研修が実施されたが、研修に対する研修員評価と事後追跡調査の結果が回収されているのは、その内 2 県に過ぎない。このため、現段階では総合的な判定を行うことはできない。しかしながら、2 県の調査、現地調査のインタビュー結果ではいずれも高い割合の研修受講普及員が研修の成果を活用していることが確認された。また、間接的な指標ながら、前プロジェクトの追跡調査で示された MP3 研修を受講した普及員のサービスを受けた農民の反応等を見る限り、MP3 手法による普及活動に対する農家の反応が高いことが確認されたことから、本プロジェクト目標の達成度は高いレベルに達することが期待される。以上により、全ての成果はプロジェクト目標実現のために貢献しており、本プロジェクトの有効性は全体的に高いと判断された。

(3) 効率性

最終評価アンケートに示された「効率性」についての回答や、インタビュー情報等から、日本国側からの投入（専門家派遣、供与機材、本邦研修、ローカルコスト負担）は、いずれも適正に実施され、プロジェクト活動のために効率的に利用されたと判断される。

一方、インドネシア国側からのプロジェクト活動費の拠出が、特に 1 年目はしばしば遅れたことが、プロジェクトの進捗に影響を及ぼした。しかし、これは、当国の予算申請時期（8 月）と本プロジェクトの R/D 締結（10 月）のタイミングのズレに起因する問題で、ある意味不可避であったとも言える。プロジェクトの開始後、予算獲得に向けたインドネシア国側の努力により、2 年目からは顕著な増加が見られた。なお、今後の教訓としては、予算不足による 1 年目の活動停滞という事態を避けるために、プロジェクト開始前に日本国側・インドネシア国側双方による事前準備を行う時間を設定することが有効であったかもしれない。

適切な基準が無いので、プロジェクトの費用対効果を測定することは困難であったものの、参考までに行った先行プロジェクトとの投入量の比較では、本件プロジェクトの投入が極端に大きかった事実は認められなかった。当初計画では、プロジェクト期間中に最大で 7 県の普及員に対して MP3 研修を実施することを目標としていたが、本調査が行われた時点ですでにこの目標はクリアし、更にインドネシア国側の投入によりプロジェクトの費用対効果は、達成した成果の規模から見ても悪くはなかったものと判断される。

以上の分析により、本プロジェクトの総合的な効率性は、中～高レベルと判断された。

(4) インパクト

本調査団が、調査期間中に訪問した訓練センターの職員へのインタビューでは、各センターとも MP3 研修の内容や重要性をよく理解しており、他の研修コースでも同手法を紹介したり、その一部を取り入れたりしていることが確認された。その意味で、本プロジェクトは、訓練センターの教官や普及員に、今までとは異なった普及手法を取入れる機会を提供したという意味で、大きなインパクトをもたらしていると言える。

しかし、「(対象地域) 農家の農業経営が改善される」とする上位目標に対して、本件プロジェクトがどの程度のインパクトをもたらしたか、あるいはもたらすかという点に関しては、今回の調査では評価することが困難であった。その理由として、

- 1) PDM で示された上位目標とプロジェクト目標の間に論理的な飛躍があったこと
- 2) 農業経営の改善という大きな目標が達成されるためには、PDM には必ずしも示されていない他の多くの外部条件が満たされる必要があると考えられたこと
- 3) プロジェクト活動の一環として上位目標へのインパクトを客観的に証明するための総合的な調査はまだ実施されていないこと

等であった。PDM の論理関係や外部条件については、開始前、あるいは開始直後のいずれかの段階で再検討される必要があったものと考えられる。

本プロジェクトのインパクトは、以上の様な分析に基づき、中程度と判断された。

(5) 持続発展性

プロジェクト活動の結果、全国7つの国立訓練センターの教官は、普及員に対してMP3研修を実施するために必要な知識と技能を満足なレベルで獲得しており、これらの教官は、プロジェクト終了後も、外部からの技術的な支援は無くてもMP3研修を継続できる状況にある。また、本調査団が訪れた研修センターでは、来年以降も、MP3研修を継続的に実施する意向であることが確認されている。従って、技術的、組織的な意味での持続発展性は高いと判断された。

また、プロジェクト実施期間中、研修に係る経費は、中央政府（訓練センター）、地方政府とJICAの間でシェアされたが、終了後は、中央政府と地方政府によってこの経費がまかなわれる必要がある。来年以降、各センターがMP3研修を引き続き実施できるかどうかは、それを可能とする資金が確保されるかどうかに影響される。この点について、人材開発庁は、各センターに対して、来年度の予算にMP3研修経費を含めるよう指導していること、本調査団が訪問した全てのセンターでは、その手配が既になされていることが確認されたこと、MP3研修を普及員に受講させることを希望している県が既に幾つか候補になっており、そうした県では、研修への経費を自ら負担する意思を表明している等の状況から見て、最も懸念される財政的な持続発展性についても、ある程度高いものと判断された。

3-3 効果発現に貢献した要因

専門家、C/P参加による定期的なミーティングの開催等、コミュニケーションの場を増加させるよう関係者が努力したことによって実施プロセスで起きた種々の問題は徐々に軽減され、結果的に本プロジェクトの活動は概ね順調に実施された。その他、実施プロセスにおける促進要因として、前プロジェクトで活動したカユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官が再びC/Pとして配置され、活動の継続性が確保されたこと、各訓練センターの教官が、MP3手法を理解し、取り入れる能力を十分に持っていたこと、派遣された専門家の現地語によるコミュニケーション能力が高かったこと等が確認された。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

上位目標とプロジェクト目標の論理的な飛躍があったため、本プロジェクトはMP3研修の全国展開が中心か、MP3研修の制度化を目指すのか、あるいはMP3手法を活用しながら地方自治体（県）の普及活動を改善し、その地域の営農改善につなげることを目指すのか、全体的な理解の共有ができないままであったとの指摘があった。

(2) 実施プロセスに関すること

発足後の実施プロセスでは、特に活動1年目に実施関係者内部（専門家・C/P職員）のコミュニケーションや活動費不足等の問題がしばしば発生し、プロジェクトの進捗に影響を及ぼしたことが報告された。この要因としては、プロジェクト事務所をジャカルタとバンドン（カユアンボン）という距離の離れた2カ所に設置したことが、内部コミュニケーションを難しくしたとの指摘もあった。しかし、専門家、C/P参加による定期的なミーティングの開催等、コミュニケーションの場を増加させるよう関係者が努力したことによって問題は徐々に軽減されていった。

3-5 結論

本調査の結果とその分析から、本プロジェクトの活動は、日本人専門家とインドネシア国側C/P職員による密接な協力により、計画に沿って順調に実施されてきたと結論付けることができる。設定された成果とプロジェクト目標は、来年1月4日のプロジェクト終了日までにはほぼ達成される見込みである。その意味で、プロジェクトは「成功」しつつあると言えよう。プロジェクトの進捗に貢献した要因としては、プロジェクトの目標達成に向けた日本国側・インドネシア国側双方関係者の努力と良好な関係、C/Pや訓練センター教官のプロジェクトの推奨する技術（手法）に対する理解と高い吸収能力等があった。

一方、プロジェクト・デザインの問題として、上位目標とプロジェクト目標の間の論理的な飛躍があったことが確認された。インドネシア国の農業普及サービスを農村コミュニティにとって有益なものとし、上位目標である「農業経営の改善」を達成していくためには、本プロジェクトによる取り組みだけでな

く、他にも多くの努力が継続される必要があるものと考えられた。

3-6 提言

本件プロジェクトの終了までに、以下が取り組まれることを提言した。

- 1) プロジェクトが10月に予定しているフォローアップ・ワークショップにMP3講師研修(TOT)参加者のみならず、各訓練センターでMP3研修に関与したセンター教官を含めること。
- 2) 人材開発庁訓練開発局と各訓練センターは、県政府当局に対してMP3手法についての啓発活動を継続すること。
- 3) プロジェクトは終了後3～5年のMP3研修実施に係る中期的な行動計画を、プロジェクト期間中に策定すること。

また、プロジェクト終了後に、引き続き取り組むべき事項として、以下を提案した。

- 1) 人材開発庁訓練開発局は、各訓練センターが対象県の普及員に対してMP3研修を継続できる様に予算の確保を確実に行うこと。
- 2) 本件プロジェクトの結果を把握するために、全ての訓練センターで研修後評価調査を実施し、結果をまとめること。
- 3) プロジェクト終了後数年以内に、人材開発庁は訓練センターや県政府と協力して、インパクト調査を実施すること。
- 4) 人材開発庁は、農業省内に新たに設置された「データベース・ユニット」等と協力して、プロジェクト終了後もその有効活用に努めること。
- 5) プロジェクトで供与された機材は、プロジェクト終了後も、MP3研修普及を目的とした活動のために、末永く有効に使われるべきこと。
- 6) 訓練センター間や庁内のデータベース・ユニットを結ぶネットワークを構築することが有効である。
- 7) 訓練開発局は、2KR見返り資金によるP4S研修プロジェクトや、世銀融資のFEATIプロジェクト、あるいは国際農業開発基金(IFAD)融資による農村エンパワーメント農業開発(READ)プロジェクト等で、本件プロジェクトの成果が活用される様に、中心的な役割を果たすこと。
- 8) 近隣国との参加型普及に関わる経験の共有が可能となる様に、JICAとして今後協力を検討する。

3-7 フォローアップの状況

該当無し

第1章 評価調査の概要

1-1 プロジェクト実施の背景

インドネシア共和国（以下、「インドネシア国」）の農業政策は、スハルト時代のビマス運動（主要穀物増産運動）に代表される「食糧増産」から、国家開発計画（PROPENAS、2000年～2004年）の枠組みの下に「農家収入の向上」へ転換が図られた。特に2000年11月に農業省によって取りまとめられた「2001年～2004年 農業開発計画」においては特に「アグリビジネス」重視の考え方にに基づき、農民に対して農作物の付加価値の付与やマーケティングの強化といった近代的経営を志向する「儲かる農業」が奨励された。同計画の中で、営農技術の普及はアグリビジネスの発展のために不可欠なサービスと位置付けられ、これを実現するためには農民を直接指導する農業普及員の能力向上が重要との認識が示された。こうした状況の中、普及員には従来の農産物の生産技術指導に加え、市場の情報や農民組織の運営改善といったコンサルタント的な役割が求められることとなった。しかしながら、インドネシア国では、その様なニーズに対応できる様な農業普及員の能力を組織的に向上させていくための訓練プログラムが未整備であった。

この様な背景から、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）はインドネシア国政府からの要請に基づき、1999年9月から2002年3月まで西ジャワ州のカユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターをモデルとした「農業普及・研修システム改善計画（Project for Improvement of Agricultural Extension and Training System : PIAETS）」の実施を支援した。同プロジェクトは、地域内の先進農家の優良事例を発掘・分析し、普及教材にとりまとめて活用する参加型農業普及の研修手法（PIAETS 手法¹）を開発するとともに、同手法を適用した普及員研修プログラムを西ジャワ州バンドン県内で試行的に実施した。2001年11月に実施された同プロジェクトの終了時評価調査において、同手法は普及員の能力向上の手段として有効であることが確認された。

インドネシア国政府は、PIAETS プロジェクトの成果を基に、アグリビジネス振興の政策に対応すべく、農民組織化やマーケティングといった新しい概念を取り入れることで PIAETS 手法に基づく教材作成・指導手法を改善するとともに、バンドン県に限定された普及員研修プログラムを他県にも広めていくために、PIAETS 後継プロジェクトとして本件技術協力への支援を我が国へ要請した。これに応じて、JICA は2004年1月5日から3年間の計画で本件技術協力プロジェクトを実施してきた。

1-2 調査の目的

本件プロジェクトは現在、2007年1月の協力期間終了に向け、活動のとりまとめに入っている段階にあるが、プロジェクトが当初設定した効果を上げつつあるかどうか総合的に検証するとともに、プロジェクト終了に向け日本国側・インドネシア国側双方が取るべき対応策について提言を行うために、終了時評価調査を実施した。本終了時評価調査の詳細な目的は以下の通り。

- (a) これまで実施した本件プロジェクトの協力活動について当初計画に照らし、計画達成度（投入・活動実績、アウトプット・プロジェクト目標の達成状況）を把握する。

¹ 「PIAETS 手法」は、その後「MP3 手法」（インドネシア語で「参加型農業普及研修手法」）という名称に改められた。手法の概要を付属資料1に示した。

- (b) 計画達成度を踏まえ、JICA 事業評価ガイドラインに沿って評価 5 項目（妥当性・有効性・効率性・インパクト・自立発展性）の観点からプロジェクトを評価する。
- (c) 調査結果から、本件プロジェクトの日本国側及びインドネシア国側の今後の対応について提言を行う。

1-3 調査団の構成と調査日程、面談者

(1) 調査団の構成

団長・総括 花里 信彦 JICA インドネシア事務所 次長
 評価計画 山根 誠 JICA インドネシア事務所 所員
 評価分析 鈴木 篤志 アイ・シー・ネット（株） コンサルタント

(2) 調査期間と日程

本調査は、下表に示される通り、2006年9月4日（月）から9月15日（金）までの日程で実施された。

日順	月日	活動内容	担当
1	9/4 (月)	団内打合せ、専門家へのインタビュー、大使館表敬訪問	山根、鈴木
2	9/5 (火)	訓練開発局長、C/P へのインタビュー、農業省国際協力局表敬	花里、山根、鈴木
3	9/6 (水)	ジャカルタ→マラン移動、バトゥ・ケティンダン農業教育訓練センター教官へのインタビュー、ケティンダン泊	鈴木（八木専門家、C/P 同行）
4	9/7 (木)	パスルアン県ゴンダ・ウェタン郡 MP3 受講普及員、農民グループへのインタビュー、スラバヤ泊	〃
5	9/8 (金)	グレシク県メンガンティ郡 MP3 受講普及員、農民グループへのインタビュー、スラバヤ泊	〃
6	9/9 (土)	スラバヤ→ジャカルタ移動、調査結果の取りまとめ、ジャカルタ泊	
7	9/10 (日)	調査結果の取りまとめ、ジャカルタ泊	
8	9/11 (月)	ジャカルタ→バンドン県移動、カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターC/P・教官へのインタビュー、調査結果の取りまとめ、レンバン泊	山根、鈴木（八木専門家同行）
9	9/12 (火)	カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センター所長へのインタビュー、スバン県ビノン郡 MP3 受講普及員、農民グループへのインタビュー	山根、鈴木（八木・飯川専門家同行）
10	9/13 (水)	団内打合せ、レポート作成	花里、山根、鈴木
11	9/14 (木)	調査結果のプレゼンテーションと討議、レポート修正	花里、山根、鈴木
12	9/15 (金)	M/M 最終合意	花里、山根、鈴木

(3) 主要面談者

<インドネシア国側関係者>

農業省国際協力局

Yusral Tahir

職員

農業省農業人材開発庁訓練開発局

Mr. Heri Suliyanto	訓練開発局局長（プロジェクト・マネージャー）
Ms. Ella Rosilawati Kosim	訓練・協力課課長（C/P）
Dra. Dewi Darmayanti	訓練・協力係係長（C/P）
Mr. Dikdik Diharlan	訓練開発局教官（C/P）
Mr. Zahron Helmy	普及局普及専門員（C/P）

カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センター

Drs. Suryowihardi	所長
Mr. Asep Adinata	教官（C/P）
Mr. Oman Abdurachman	教官（C/P）
Mr. Dadi Sumardi	教官（C/P）

<日本国側関係者>

在インドネシア日本国大使館	
瀬尾 充	一等書記官

JICA 専門家

八木 和彦	チーフアドバイザー・業務調整
飯川 泉	農業普及・研修

東ジャワ、西ジャワ州訪問時に面会したその他の関係者リストは、付属資料 2 として添付した。

1-4 評価対象プロジェクトの概要

2003 年 10 月 29 日に、本件プロジェクトに係る実施協議が行われ、インドネシア国の農業省農業人材開発庁長官と JICA インドネシア事務所長の間で事業の内容について合意された。本件プロジェクトの概要は、表 1 の通り。

表 1 プロジェクト概要

項目	内容
プロジェクト名	和名：農業経営改善のための農業普及員訓練計画 英名：The Project for Training of Agricultural Extension Officers on Improvement of Farm Management
実施機関	①農業省農業人材開発庁 ②カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センター
本邦協力機関	農林水産省、他関連機関
R/D 締結日	2003 年 10 月 29 日
協力期間	2004 年 1 月 5 日～2007 年 1 月 4 日 3 年間
対象地域	国立農業教育訓練センター（BBDA/BDA）が所在する最大 7 県（西ジャワ州スパン県・スメダン県・東ジャワ州パスルアン県・グレシク県・東ヌサテンガラ州クバン県・南スラウェシ州ゴワ県・南カリマンタン州セラタン県）
ターゲット・グループ	対象県の国立農業教育訓練センター（BBDA/BDA）教官及び上級、フィールドレベルの農業普及員
上位目標	（MP3 研修の実施を通して、）選択地域の農業経営が改善される。
プロジェクト目標	改善された優良事例活用研修（MP3 手法）を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する。

項目	内容
期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. MP3 手法研修プログラムが、カユアンボン農業教育訓練センターで改善される。 2. 優良事例活用研修の講師訓練 (TOT) プログラムが、カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターで確立される。 3. MP3 手法研修プログラムが、選択地域で適用される。
主な活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. MP3 プログラムの改善を行う。 2. 講師研修 (TOT) を実施する。 3. MP3 研修手法を他地域へ展開する。
関連協力事業	農業普及・研修システム改善計画 (1999年9月1日～2002年3月31日実施)

第2章 調査の方法

2-1 評価設問の設定とグリッドの作成

本評価調査は、「JICA 事業評価ガイドライン (2004 年)」に示された、プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) の評価手法によって実施した。調査を実施するにあたり、計画達成度の把握、実施プロセスの検証、5 項目による評価を行うための評価設問を設定した。それぞれの評価設問に対し、必要な情報・データ、その情報源や収集方法について検討し、付属資料 3 に示した評価グリッドを作成した。現地調査における情報・データの収集は、作成した評価グリッドに沿って行った。

なお、本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) については、プロジェクト開始後、日本人専門家とインドネシア国側 C/P によって逐次見直しが行われた。この結果、プロジェクト実施期間中 PDM の枠組みに係る大きな変更は無かったものの、主に「外部条件」の記載事項を中心に PDM の内容に変更が加えられた。なお、R/D 署名後に変更された内容と変更理由を表 2 にまとめた。これら見直しによって作成された最終版の PDM は付属資料 4 に示された通りで、本評価調査はこの最終版 PDM に基づき実施した。

表 2 PDM の変更内容と理由

項目	変更内容	理由
全 般	手法の名称を“PIAETS” (前プロジェクト名の略称) から“MP3” (現地語で「参加型農業普及手法」を意味する) に変更。	現地語による表現の方が、農家や関係者に分かり易くする。
上位目標	「MP3 研修の実施を通して農業経営が改善される」に変更。	プロジェクトは研修を通して農業経営改善に役立つことをより明確にする。
活 動	項目 1-2 : “Farmers’ group management” を “Farmers’ organization management” に変更。	“Farmers’ group” は、一般的に認められていない任意の農家グループをも含まれる恐れがある。
	「項目 1-4 : (優良事例) データベースを構築、運用する」を追記。	成果 1 「MP3 研修プログラム改善」実現のために不可欠な活動と考えられる。
	項目 2-3 : “Follow-up the training activities of TOT trainees” を削除。	この活動は、活動項目 3 の一環と考えられたことから、整理・統合する。
指 標	成果 1 : 「構築された (優良事例) データベースが、各センター教官と普及員に維持、活用される」を追記。	
外部条件	プロジェクト目標→上位目標レベル : 「MP3 手法が継続して改善される」を追記。	
	プロジェクト目標→上位目標レベル : 「地方自治体による普及活動が現在のレベルで実施される」を追記。	

項目	変更内容	理由
	成果→プロジェクト目標レベル：「県政府により普及員に対する普及活動費が確保される」を削除。	研修経費が多少なりとも確保される様な県を選択するアプローチをとるため、自己矛盾がある。
	成果→プロジェクト目標レベル：「新しい普及手法が農家に受け入れられる」を削除。	普及手法＝研修手法を農家に受け入れられる様に改善すること自体がプロジェクトの活動と考えられる。
	成果→プロジェクト目標レベル：「研修センターが講師訓練を継続実施するための予算がプロジェクト実施後も措置される」を削除。	前提条件に含まれる。
	成果→プロジェクト目標レベル：「普及システムに大きな変更が無い」を追記。	
前提条件	「BDA 教官の研修開催地への旅費がインドネシア国側で確保される」と「BDA の研修予算が執行される」を、「BBDA/BDA での MP3 研修予算がインドネシア国側で確保される」に変更。	旅費も研修経費の一部である。
	「カユアンボン BDA ・その他の BDA ・県の協力関係が構築される」を「十分である」に変更。	和文・英文 PDM 間の齟齬の訂正。
ターゲット・グループ	「BDA の教官、選択県の上級及び農業普及員」に変更。	和文・英文 PDM 間の齟齬の訂正。

2-2 情報・データ収集

評価作業に必要な情報・データは、主にプロジェクト関連文書・報告書のレビュー、関係者（日本人専門家、C/P 及びその他実施機関関係者）へのアンケート（付属資料 9 Annex 1）、インタビュー、面談、協議を通じて収集し分析した。なお、本調査のために参考とした主な関連文書のリストを、付属資料 5 に示した。現地調査においては、首都ジャカルタの他、西ジャワ、東ジャワ州を訪問し、プロジェクト関係者や研修の対象となった農業普及員、最終受益者農民（グループ）へのインタビューも行った。

2-3 データの分析とレポート作成

現地調査から得られた情報を調査団で集計・分析し、評価レポートのドラフト（英語）を作成した。そのドラフトに基づき、プロジェクト関係者に対してプレゼンテーションを行い、調査結果のフィードバックを行うとともに、評価結果、更には今後の課題や展望について意見交換した。ここで出された意見を取り込んで、最終評価レポートを作成した。レポートは、合意文書（Minutes of Meetings）として、インドネシア国側農業人材開発庁長官と日本国側評価調査団団長との間で署名をした（付属資料 9）。

2-4 調査の制約・限界

本評価調査では、可能な限り客観的で包括的な情報・データの入手に努めたが、限られた時間内での調査と評価分析のため、以下に示す様な制約があった。

- (a) 本プロジェクトが対象としたのは、全国7カ所の国立農業訓練センターと7県だが、本調査で実際に訪問できたのは、メインサイトであった西ジャワ州のカユアンボンと東ジャワ州内2カ所の訓練センターと3県のみであった。面談による情報収集は、これら限られた対象地における限られた対象者からのみ可能だった。
- (b) 投入や活動の適性度といった価値判断については、アンケートの方法に工夫を加える等、できる限り定量的・客観的な分析になる様に努力した。しかし、量的なデータが入手できない場合、関連資料やアンケート、面談者の証言を調査団が可能な限り客観的な視点から検証し、定性的な情報として分析した。

第3章 調査の結果（プロジェクトの実績）

3-1 日本国側からの投入実績

(1) 専門家派遣

R/D で合意された計画に基づき、プロジェクト実施期間中に長期専門家3人、短期専門家2人が派遣された。派遣専門家の詳細は、表3に示した通り。

表3 専門家の派遣実績

区分	氏名	指導分野	派遣期間
長期	八木 和彦	チーフアドバイザー (2006/1/5 から業務調整兼務)	2004/01/05～2007/01/04 (36M/M)
	飯川 泉	農業普及 (2006/1/5 から研修分野兼務)	2004/02/05～2007/01/04 (35M/M)
	牧野 千秋	研修/業務調整	2004/01/05～2006/01/04 (24M/M)
短期	西村 美彦	マーケティング	2004/08/01～08/28 (0.9M/M)
	板垣 啓子	農民組織化	2004/08/22～10/05 (1.5M/M)

(2) 本邦 C/P 研修

表4に示された通り、プロジェクト期間中に7人のC/Pが日本国で研修を受けた。

表4 本邦 C/P 研修の実績

No.	氏名	役職・所属	研修内容	研修期間
1	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	訓練開発局長	農業普及研修行政	2004/03/15～03/26 (14日)
2	Mr. Oman Abdurachman	カユアンボン訓練 センター教官	農業普及研修	2004/12/02～12/18 (16日)
3	Mr. Duddy R. Dewayana	訓練開発局長	農業普及研修	2005/06/20～07/03 (14日)
4	Ms. Ella Rosilawati Kosim	計画協力課長	農業研修、普及、 協同組合	2005/09/11～09/24 (14日)
5	Mr. Asep Adinata	カユアンボン訓練 センター教官	農業普及研修	2006/05/28～06/10 (14日)
6	Dra. Dewi Darmayanti	協力係長	農業普及システム	2005/09/17～09/30 (14日)
7	Mr. Dadi Sumardi	カユアンボン訓練 センター教官	農業普及システム	2005/09/17～09/30 (14日)

(3) 機材供与

総額1,250万円相当分の機材が、プロジェクト活動のために調達・供与された。供与された機材の詳細は表5に示される通り。

表5 機材供与の実績

No.	供与時期	品目	数	単価	小計	保管場所
1	2004/01	車両	2	¥1,784,500	¥3,569,000	人材開発庁、カユアンボン
2	2004/07	コピー機	1	3,330US\$	3,330US\$	カユアンボン
3	2004/07	コピー機	1	3,832US\$	3,832US\$	人材開発庁
4	2004/07	デジタルカメラ	8	453US\$	3,624US\$	人材開発庁、各研修センター
5	2004/07	コンピュータ (デスクトップ型)	8	2,179US\$	17,432US\$	人材開発庁、各研修センター
6	2004/07	プリンタ	8	337US\$	2,696US\$	人材開発庁、各研修センター
7	2004/07	LCD プロジェクタ	8	1,838US\$	14,704US\$	各研修センター
8	2004/07	輸送経費	1	2,097US\$	2,097US\$	
9	2006/01	コンピュータ (ノート型)	7	1,390US\$	9,730US\$	各研修センター
10	2006/01	アプリケーション	7	295US\$	2,065US\$	各研修センター
11	2006/01	アプリケーション	7	45US\$	315US\$	各研修センター
12	2006/01	デジタルカメラ	8	165US\$	1,320US\$	人材開発庁、各研修センター
合計 (換算レート: 1US\$=110円)					¥10,294,500	

(4) 日本国側のローカルコスト負担

プロジェクト実施期間中に 21 億 1,186 万ルピア (2,534 万円相当) のローカルコストを日本国側が負担した。その使途項目は表 6 に示す通りで、消耗品の購入等、一般現地業務費の支出割合が最も高かった。

表 6 日本国側のローカルコスト負担 (2003 年 1 月～2006 年 12 月)

費目	使 途	合計 ¹⁾ (1,000 ルピア)	割合 (%)
一般業務費	消耗品、車両燃料費等	1,530,869	72
出張旅費	専門家、C/P 出張旅費	309,391	15
会議費	ミーティング、ワークショップ 開催経費	19,268	1
ローカルコンサルタント 契約	マーケティング、農民組織調査経費	60,000	3
備人費	ローカルスタッフ、研修外部講師謝金	192,330	9
合 計		2,111,858 2,534.2 万円 ²⁾	100

1) 2006 年度分は、見込み額を含む。 2) 換算レート 1 ルピア=0.012 円

3-2 インドネシア国側からの投入実績

(1) C/P 職員の配置

本プロジェクトへのインドネシア国側 C/P の配置は、表 7 に示される通り。なお、農業省では組織改編の動きもあり、プロジェクト・ディレクターとマネージャーの交代が頻繁にあった。C/P は全て通常業務との兼任だった。

表7 C/P 職員の配置実績

プロジェクト内の 任務	氏名	所属・役職	期間
プロジェクト・ ディレクター	Dr. Sinis Munandar	人材開発庁長官	2004/01/05～04/30
	Mr. Suwandi	人材開発庁長官代理	2004/05/01～09/30
	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	人材開発庁長官	2004/10/01～2005/05/31
	Dr. Ato Suprpto	人材開発庁長官	2005/06/01～2007/01/04
プロジェクト・ マネージャー	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	訓練開発局長	2004/01/05～09/30
	Dr. Adolf Lucky Longdong	訓練開発局長	2004/10/01～2005/08/31
	Mr. Heri Suliyanto	訓練開発局長	2005/09/01～2007/01/04
C/P	Mr. Herry Achmad Bazuri	計画協力課長	2004/01/05～2005/11/30
	Ms. Ella Rosilawati Kosim	計画協力課長	2005/12/01～2007/01/04
	Ms. Ella Rosilawati Kosim	協力係長	2004/01/05～2005/11/30
	Dra. Dewi Darmayanti	協力係長	2005/12/01～2007/01/04
	Mr. Dikdik Diharlan	訓練開発局付教官	2005/12/01～2007/01/04
	Mr. Zahron Helmy	普及開発局専門員	2005/12/01～2007/01/04
	Mr. Asep Adinata	カユアンボン訓練センター教官	2004/01/05～2007/01/04
	Mr. Oman Abdurachman	カユアンボン訓練センター教官	2004/01/05～2007/01/04
	Mr. Dady Sumardi	カユアンボン訓練センター教官	2004/01/05～2007/01/04
	Mr. Duddy Dewayana	カユアンボン訓練センター所長	2004/01/05～2005/12/31
	Drs. Suryowihardi	カユアンボン訓練センター所長	2006/01/01～2007/01/04

(2) インドネシア国側のローカルコスト負担

プロジェクト関連活動のためにインドネシア国側から投入されたローカルコストは、表8に示した通り。プロジェクトの進捗に伴い、投入額に顕著な増加がみられる。

表8 インドネシア国によるプロジェクト関連経費の投入実績

内 容	2004年	2005年	2006年	合計 ¹⁾ (1,000ルピア)	割合 (%)
プロジェクト運営費	79,820.0	94,900.0	315,000.0	4,89,720.0	20
MP3 研修費用 (中央政府負担分)		258,010.0	781,905.0	1,039,915.0	42
MP3 研修費用 (地方政府負担分)		41,400.0	405,370.0	446,770.0	18
ワークショップ開催経費		87,700.0	153,150.0	240,850.0	10
マニュアル印刷作成費			260,020.0	260,020.0	10
合計	79,820.0	482,010.0	1,915,445.0	2,477,275.0 297.3万円 ¹⁾	100

1) 換算レート1ルピア=0.012円

(3) 施設・機材の提供

プロジェクト活動のためにインドネシア国側から投入された施設・機材を表9にまとめた。

表9 インドネシア国により投入された施設・機材

No.	施機材名	期間	備考
1	農業人材開発庁プロジェクト事務室	2004/01/05～2007/01/04	
2	BDDAH カユアンボン・プロジェクト事務所	2004/01/05～2007/01/04	2回移動あり
3	公用車 (専門家利用分)	2004/01/05～2007/01/04	3台

3-3 活動の実績

プロジェクト実施チームの進捗報告書、関係者からの聞き取りにより、プロジェクト活動は様々な課題に直面しながらも、ほぼ計画通りに実施されてきたことが確認された。プロジェクト開始直後に合意された「実施計画書 (PO)」で計画された活動と、期間中に実際に行われた活動及び関連する成果物を以下にまとめた。ここで示す通り、終了時までには本プロジェクトの活動は計画に対してほぼ 100%が達成される見込みである。

活動項目 1 : MP3 研修プログラムの改善

PO に記載された活動内容	主な活動実績	関連する成果物
1.1 前プロジェクトの PIAETS 手法 試行研修受講者のフォローアップを行う。 1) 一般情報の収集・分析 2) ETS 研修受講者の現状把握 3) 講普及員から普及サービスを受けた農家の調査実施 4) 調査の取りまとめと分析 5) フォローアップ活動	1) PIAETS 研修受講者 (バンドン県普及員) へのアンケート調査の実施 2) PIAETS 研修受講者からサービスを受けた農家の追跡調査 3) PIAETS 研修受講者フォローアップワークショップの実施 1回目 (2004/5/18-19) : 元研修生 84 人参加 2回目 (2006/2/1-3) : 元研修生 76 人参加	・元受講生へのアンケート調査結果概要 ・セミナー実施報告書
1.2 農民組織の運営やマーケティング等の概念を研修に取り入れる。 1) 「農民組織」「マーケティング」に係る調査 2) 同調査の取りまとめと分析 3) 調査結果に基づく研修内容の改善	1) バンドン県内のマーケティングと農民組織に関するローカルコンサルタント委託調査の実施 (2004 年 7~8 月) 2) 短期専門家 2 人による調査・助言・セミナーの実施 (2004 年 8~10 月) 3) 調査結果・提言を盛り込んだ研修の実施	・ローカルコンサルタント調査報告書 ・短期専門家業務完了報告書 ・農家調査報告書 ・MP3 研修実施報告書
1.3 前プロジェクトで開発された研修マニュアルを改訂する。 1) 既存の研修カリキュラムとマニュアルの改訂 2) 優良農業系技術の事例のデータベース化	1) 既存の MP3 マニュアルの分析、活動 1-1、1-2 の結果、MAT 活動の反省事項等の情報に基づき、研修マニュアルを改訂 2) バンドン県における優良事例データベースの作成、利用方法についての研修、全国の研修センターへの送付 3) 2005 年・2006 年に MP3 研修を実施した 5 県の優良事例集を製本、配布	・改訂版 MP3 マニュアル 4 種 ・優良事例データベース (マニュアルと CD) ・5 県の優良事例集

活動項目 2 : TOT 研修の実施

PO に記載された活動内容	主な活動実績	関連する成果物
2.1 TOT 研修プログラム・計画を策定する。 1) TOT の試験的な実施 2) 改善のための情報収集 3) 既存の TOT カリキュラムとマニュアルの見直し 4) TOT 実施計画の策定	1) 試行 TOT 実施 (カユアンボン BBDA で 2004/6/28-7/8) と改善点の抽出 2) 訓練センター講師対象の TOT ワークショップに向けたカリキュラム・マニュアル等の見直し、実施計画の策定	・改訂版 TOT カリキュラムとマニュアル
2.2 BDA 教官及び県の上級普及員に対する TOT を実施する。	1) 7 訓練センター講師 28 人 (内 2 人は本省職員) を対象に TOT ワークショップを実施 (2005/2/21-3/11) 2) ジャンビ BDA で政府独自予算による TOT 研修 (2006 年 3 月)	・TOT・MP3 研修実施概要報告書

2.3 TOT マニュアルを改訂する。	1) 実施済 TOT の反省事項に基づくマニュアルの改訂	・改訂版 TOT カリキュラムとマニュアル 2 種
---------------------	------------------------------	---------------------------

活動項目 3 : MP3 研修手法の他地域への展開

PO に記載された活動内容	主な活動実績	関連する成果物
3.1 選択された県の普及員対象に改善された MP3 手法の研修を行う。 1) MP3 実施対象県選定基準の検討 2) 対象候補の訓練センター (BBDAs/BDA s) ・対象県に関する情報収集と分析 3) 対象 BBDA s/BDA s と県の選定 4) MP3 研修の計画・実施に関する対象県向け指導 5) 対象県外の県における MP3 手法導入の支援	1) 県当局からプロポーザルを得た上で対象県を選定するという当初のアプローチは、MP3 手法への理解不足から機能せず、各 BBDA/BDA による対象県の選定とプロジェクト側の是認方式に変更された。 2) MP3 啓発活動の展開 (2004/8 : 主任教官会議、2004/9 : 全国訓練所会議、2004/10 : 県幹部、2005/1 : スバン・クパン県、2005/9 : 普及関係者全国セミナー、2005/10 : スメダン県、2005/12 : HS セラタン県、2006/5 : 西ジャワ州 6 県対象等) 3) ポスター、カレンダー、ダイアリーの配布、農業専門誌を通じた広報活動の実施 4) 訓練センター主催で普及員向け MP3 研修の実施 (2005 年 3 県、2006 年 4 県) 5) インドネシア国側独自予算による研修実施	・7 県での研修実施報告書
3.2 選択された地域における MP3 手法の成果をモニタリング・評価する。 1) 研修受講者による普及活動の現状把握調査 2) 同調査の取りまとめと分析、対処法についての検討	1) 2005 年に研修実施した 3 県の受講者を対象とした研修事後評価調査の実施 2) MAT 活動 : ①スバン県 (2005 年 5~8 月)、②クパン県 (2005 年 7~10 月)、③ゴワ県 (2005 年 7~11 月)、④ビヌアン県 (2006 年 2 月)、⑤チナガラ県 (2006 年 2 月) 3) MAT 活動報告書の提出を徹底	・2005 年実施 3 県の研修事後評価報告書 ・MAT 活動報告書

なお、プロジェクト期間中に実施された研修・セミナーの一覧を付属資料 6 にまとめた。

3-4 プロジェクト実施プロセス

本プロジェクトの概念図を、付属資料 7 に示した。インドネシア国農業省農業人材開発庁 (AAHRD) の傘下にある農業訓練開発局 (BATD) とカユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センター (BBDA-Kayuambon) が、日本人専門家からの支援を受けながら本プロジェクトを実施してきた。発足後の実施プロセスでは、特に活動 1 年目に実施関係者内部 (専門家・C/P) のコミュニケーションや活動費の不足等の問題がしばしば発生し、プロジェクトの進捗に影響を及ぼしたことが報告された。この要因としては、プロジェクト事務所をジャカルタとバンドン (カユアンボン) という距離の離れた 2 カ所に設置したことが、内部コミュニケーションを難しくしたとの指摘もあった。しかし、専門家、C/P 参加による定期的なミーティングの開催等 (表 10)、コミュニケーションの場を増加させる様に関係者が努力したことによって問題は徐々に軽減されていった。また上記、表 8 に示される様に、2 年目からはインドネシア国側が支出した活動費についても顕著な増加があった。この結果、本プロジェクトの活動は、概ね順調に実施されたとみられる。

表 10 プロジェクト運営方針に係わる会合の種類と開催頻度

会合のタイプ	開催目的	開催頻度	主な参加者
合同運営委員会 (JCC)	日本国側・インドネシア国側双方による年次活動計画の決定、プロジェクト進捗の確認	年 1 回 (2004/4/7、2005/4/15、2006/2/17)	ディレクター、マネージャー、JICA 事務所担当者、専門家、C/P 職員
C/P 定例会議	活動進捗に関する情報共有	毎月 1 回程度	専門家、C/P 職員
ワークショップ	実施体制に係る方針、課題解決のための話し合い	不定期 (2004 年に 2 回開催)	専門家、C/P 職員
専門家内打合せ	活動に係わる内部打合せ	適宜	専門家

その他、実施プロセスにおける促進要因としては、以下が確認された。

- i) 前プロジェクトで活動したカユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官が、再び C/P として配置され、活動の継続性が確保されたこと。
- ii) 各訓練センターの教官は、そもそも研修のプロフェッショナルであり、MP3 手法を理解し、取り入れる能力が十分に備わっていたこと。
- iii) 派遣された専門家のインドネシア語によるコミュニケーション能力が高かったこと。

なお、プロジェクト関係者を対象に行った評価アンケートで、「実施プロセス」に関する質問項目に対する回答者による評価結果は、表 11 の通り。

表 11 「実施プロセス」に関する評価アンケートの結果

評価項目		平均評価点		
中項目	小項目	専門家 (2)	C/P (10)	センター教官 (13)
投入、活動の進捗状況	進捗度	3.50	3.70	3.10
マネジメント体制	モニタリング	3.00	3.80	3.46
	PDM・PO の軌道修正	4.00	3.70	2.92
	専門家と C/P 間のコミュニケーション・情報共有	2.50	3.80	3.08
	定期会議、合同運営委員会 (JCC) の機能性	3.50	3.60	3.25
実施機関のオーナーシップ	JICA とプロジェクト間のコミュニケーション	2.00	3.30	3.33
	インドネシア国側責任者・C/P の参加	2.50	3.50	2.92
他プロジェクトとの連携	インドネシア国側活動予算の手当	3.00	3.60	3.15
	連携度合い	3.50	3.11	2.90
促進・阻害要因	組織改編、人事異動の影響	3.00	3.40	2.00
	阻害要因の影響	3.00	1.78	2.54

(注釈)

- 1) 「平均評価点」は、アンケート回答者 (25 人) の評価項目の各ステートメント (付属資料 9 Annex 1 参照) に対する同意レベル (0~4) を次の計算式によって求めたもので、最低 0 から最高 4 のスケールで示される。

$$\text{平均評価点} = \frac{[(n_0 \times 0) + (n_1 \times 1) + (n_2 \times 2) + (n_3 \times 3) + (n_4 \times 4)]}{(n_0 + n_1 + n_2 + n_3 + n_4)}$$

一般的には、より高い平均評価点の評価項目は、より多くの回答者がその項目についてのステートメントに対し高いレベルで同意したことを示すことから、その評価項目に対して全体的により高い評価を与えたことを意味する。しかし、例えば、「阻害要因の影響」等、マイナスのステートメントでは、高い同意レベルが評価の観点からは逆に低いことを意味する場合もある。

- 2) 「専門家」は、本調査時点に派遣されていた長期専門家2人。
- 3) 「C/P」回答者は、人材開発庁長官（プロジェクト・ディレクター）、訓練開発局（プロジェクト・マネジャー）を含むジャカルタ、カユアンボン両サイトのC/P10人。
- 4) 「センター教官」回答者は、プロジェクト期間中に普及員向けのMP3研修に関与した訓練センターの所長と教官13人。内訳は以下の通り。

西ヌサテンガラ州ノエルバキ訓練センター所長1人
西ジャワ州チナガラ訓練センター教官1人
東ジャワ州ケティンダン訓練センター教官1人
東ジャワ州バトゥ訓練センター教官5人
南カリマンタン州ビヌアン訓練センター教官4人
南スラウェシ州バタンカルク訓練センター教官1人

なお、以下、表12, 16, 18, 19, 20は、全て同じ方法によって得られた結果に基づく。

第4章 5項目評価による評価結果

4-1 妥当性

「妥当性」は、プロジェクトの形成から実施の全期間を通して、その目標がインドネシア国の当該分野の政策、対象グループのニーズ、あるいは日本国の対インドネシア国援助政策に合致していたか、手段として適切であったか等の視点から分析、評価するものである。本プロジェクトの妥当性は、以下の分析結果から総合的に「高い」と判断された。

(1) インドネシア国の開発政策への妥当性・手段としての適切性

インドネシア国では、長年にわたって食料生産、特に米の増産が最大の農業政策の課題とされ、農業普及サービスもこの目的を達成するために、試験場等で開発された技術の一方向的な普及を求めるトップダウンのアプローチで実施されてきた。しかし、1990年代後半頃より、「食糧増産」から「付加価値の高い農業の推進」へと政策の焦点が移され、特に国家経済におけるアグリビジネスの役割が強調されるようになった。更に、1999年には地方分権化が開始され、普及員のリクルートや研修、資金の拠出等、農業普及に関わる多くの機能が地方政府（主に県）へ移管され始めた。

この様な政策変化の中で、これまでの様なトップダウンの一方向的なアプローチによらず、農民が抱える課題やニーズに的確に対応しつつ、地域の特性に合った技術を発掘・普及する新しいタイプの農業普及システムを導入する必要性が高まった。1999年から実施された PIAETS プロジェクトと、その後継事業として実施された本件プロジェクトは、「地域優良技術の発掘とその普及」を基本とするボトムアップの参加型普及アプローチを、普及員への研修を通して農業普及サービスに導入することを目的として実施されたものであった。従って、本プロジェクトにおける、インドネシア国政府の開発政策への妥当性は高く、開発ニーズに沿ったものであったと判断される。

(2) 日本国の援助政策との整合性

日本国政府は、2004年11月策定の対インドネシア国別援助計画において、①民間主導の持続的な成長、②民主的で公正な社会づくり、③平和と安定、という3つの重点分野を定めている。一方、JICAは「国別事業実施計画」において、インドネシア国政府の「国家開発計画」及び同国におけるこれまでの支援ニーズと実績を踏まえ、また、日本国の「国別援助計画」における3重点分野を踏襲しつつ、これを具体化して5重点分野²を定め、具体的な事業の実施計画を策定している。5つの重点分野の下、更に詳細な24サブ・プログラムが設定されているが、本件プロジェクトはこの内「貧困削減」に対する取り組みの1つである「食糧安定供給・農漁家所得向上サブ・プログラム」の下に位置付けられている³。

² ①経済改革支援、②グッド・ガバナンス支援、③経済発展基盤の強化、④社会開発と貧困削減、⑤環境保全。

³ この他、JICAは農水産分野への日本国の援助事業の方向性を検討するために2001年に「プロジェクト形成調査」、2002年から2005年にかけて「セクタープログラム開発計画調査」を実施した。これらの調査を通し、日本国の開発援助に係る原則（ODA大綱等）や開発優先度の高い課題等の分析を行い、政府開発援助により取り組む課題として、マクロ的な国家経済的な視点から「食料の安定供給及び栄養改善」、私経済的な視点から「農漁家所得の向上と村落経済の活性化」を選定し、これらの開発課題に対する5つの協力プログラムを選定した。本プロジェクトは、この内「農業制度改善・生産支援プログラム」での取り組みの1つと位置付けられ、実施されることになった。

この様に、本プロジェクトは日本国政府と JICA の開発援助プログラムに沿って採択・実施されたことから、日本国の援助政策との整合性は高かったと、判断される。

なお、プロジェクト関係者がアンケート調査で回答した「妥当性」に関する項目の評価結果は、表 12 に示す通り。

表 12 「妥当性」に関する評価アンケートの結果

評価項目		評価点		
中項目	小項目（設問）	専門家 (2)	C/P (10)	BDA 教官 (13)
プロジェクトの 必要性	実施機関のニーズとの整合性	3.00	3.70	3.45
	対象グループのニーズとの整合性	3.50	3.70	3.38
政策との整合性	インドネシア国国家開発計画、 農業省政策との整合性	3.00	3.40	3.23
	日本国の援助政策との整合性	3.50	3.40	2.90
手段としての適切性	プロジェクト・アプローチの適切性	3.00	3.80	3.15
	対象地域、プロジェクトサイト選定の適切性	3.50	3.30	3.23
	ターゲットグループの絞り込みの適切性	3.50	3.10	3.00
	ターゲットグループ以外への波及性（見込み）	4.00	3.60	3.23
	日本国の技術の優位性	2.50	3.30	3.15
「妥当性」についての総合評価（項目別評価点の平均）		3.05	3.39	2.97

4-2 有効性

「有効性」については、特にプロジェクトの成果がどの程度プロジェクトの目標に貢献したか、あるいは貢献する見込みがあるかという観点から、成果とプロジェクト目標の達成度を分析・評価するものである。本プロジェクトの総合的な有効性は、以下の考察に基づき高いと判断された。

(1) 成果（アウトプット）レベルの有効性

PDM に設定されていた 3 つの成果について、本調査で確認された実績と達成度の総合判定結果を以下に示した。

①成果 1：MP3 手法研修プログラムが、カユアンボン農業教育訓練センターで改善される。

指 標	実績の要約
1-1 研修プログラムが調査報告や分析に基づき改善され、マニュアルが改訂される。	1) 前プロジェクトの研修受講生（バンドン県普及員）に対する 2 回にわたるフォローアップ研修、バンドン県農家調査の結果、短期専門家による調査と提言、MAT 活動による反省点等を取り入れることにより、MP3 研修プログラムは改善された。 2) これらの活動に基づき、既存マニュアル 5 種（TOT 用 2 種）の改訂と新規マニュアル 1 種が 2006 年 9 月までに完了している。主な改善点は、下表 13 に要約した通り。
1-2 構築された（優良事例）データベースが、各センター教官と普及員に維持、活用される。	1) 2005 年と 2006 年実施分の 5 県の事例集は 9 月までに製本を済ませ、配布予定。2005 年の事例はコンピュータベースのデータベースとして収録し、関係機関に配布される予定。 2) コンピュータベースのデータベースは、多くの研修センターや地方自治体の普及局にあるコンピュータ自体の維持管理に問題があり、その活用に課題を残している。

表 13 研修マニュアルの改善点一覧

マニュアルの種類	改善点
1. MP3 研修説明書 (2002 年度版の改訂)	<ul style="list-style-type: none"> ● TOT 研修実施と MP3 研修実施の項目を分けて記述、また内容についても追加説明 ● カリキュラムの改善 ● MP3 研修の基本理念の追記 ● 農業普及の考え方と実施促進の項目の追記
2. TOT 実施要領書 (2002 年度版の改訂)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者用と受講者用に分冊し、それぞれ追加説明と研修期間、内容を改善 ● 研修期間 7 日を 21 日間に延長 ● 優良事例と情報収集に係る事項の追加 ● 要約集フォーマットに調査、記述項目を追加 ● 研修時における配布資料について追加記述 ● カリキュラムの改善： 1) 市場に関する講座の追加 2) 組織に関する講座の追加
3. MP3 研修実施要領書 (2002 年度版の改訂)	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導者用と受講者用に分冊し、それぞれ追加説明と研修期間、内容を改善 ● 研修期間の見直し：講座日数合計 16 日間→18 日間（セッション 3 と 4 にそれぞれ 1 日追加） ● カリキュラムに、マーケティング、農民組織に係わる講座時間を追加
4. MP3 研修実施手引き	<p>新規に指導者用として作成</p> <p>内容：1) MP3 研修実施のための事前準備作業 2) 研修実施期間中における研修遂行方法 3) 指導者報告書作成事例 4) 添付資料例</p>

成果 1 の達成度：データベースの維持活用に今後の課題を残していることを除いて、上記の通り、設定された指標についてはほぼ達成される見込みであることから、本成果の達成度は 90%以上と判断される

②**成果 2：**カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターで、優良事例活用研修の講師訓練（TOT）プログラムが確立される。

指 標	実績の要約
2-1 カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官が自ら講師訓練を実施し、モニタリング、評価できる様になり、マニュアルを改善する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 試行 TOT を実施し、改善点等を取りまとめた上で、7 訓練センター講師ら 28 人(本庁 C/P2 人名)を対象に本格 TOT が実施された。TOT 受講者は、各センターに戻り、2005 年から 2006 年にかけて対象県の普及員研修をそれぞれ実施した。 2) 研修の反省点を取り入れ、TOT マニュアル 2 種の改訂作業は 9 月に完了予定。 3) インドネシア国独自の TOT が、ジャンビ BDA 教官に対して行われた。

成果 2 の達成度：TOT 確立に係る活動の結果、インドネシア国側のリソースで研修が行われるようになったことから、本成果の達成度は 100%と判断される。

③**成果3**：MP3 手法研修プログラムが、選択地域（最大7県）で適用される。

指標	実績の要約														
3-1 MP3 研修が実施された県の数	1) プロジェクトによる精力的な啓発活動により、MP3 手法のことを知る県普及関係者の数は徐々に増えた。実際に普及員研修が行われた県は、7 県となり合計 210 人の普及員が研修を受講した。インドネシア国独自予算による対象県を加えると、11 県となり、目標（7 件）を超える。														
3-2 研修内容に対し、理解や活用可能性を示す研修受講者が 80%を上回る。	2) 2005 年に研修対象となった 2 県（スバン・ゴワ）の普及員による研修終了時の評価では、100%の参加者が研修内容を理解できたと回答した（表 14）。 <p style="text-align: center;">表 14 2005 年 MP3 研修実施 2 県での受講した普及員の評価</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">Yes と回答した普及員数</th> </tr> <tr> <th>スバン県 (n=30)</th> <th>ゴワ県 (n=30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) MP3 研修で学びたかったことは習得できたか</td> <td>29</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>2) 研修内容については十分理解できたか</td> <td>30</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>3) 研修の目的は達せられたか</td> <td>29</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">資料：プロジェクト資料「スバン県・ゴワ県 MP3 研修参加者による研修評価・事後評価」</p> 3) 本調査団がインタビューした東ジャワ州パスルアン県・グレンク県と西ジャワ州スバン県の MP3 研修受講普及員は、全て研修内容とその活用に対して肯定的に回答した。	質問項目	Yes と回答した普及員数		スバン県 (n=30)	ゴワ県 (n=30)	1) MP3 研修で学びたかったことは習得できたか	29	28	2) 研修内容については十分理解できたか	30	30	3) 研修の目的は達せられたか	29	29
質問項目	Yes と回答した普及員数														
	スバン県 (n=30)	ゴワ県 (n=30)													
1) MP3 研修で学びたかったことは習得できたか	29	28													
2) 研修内容については十分理解できたか	30	30													
3) 研修の目的は達せられたか	29	29													

成果3の達成度：プロジェクト当初計画で示された目標の、最高7県を超える県でMP3研修が実施された。その内、研修に対する研修員評価と事後追跡調査の結果が回収されているのは2県に過ぎない。4県では、研修が8月に終了したばかりであった。このため现阶段では、受講者の理解度や活用可能性について総合的な判定を行うことはできないが、上記2県の調査結果、現地調査のインタビューの結果等から判断すれば、本成果の達成度は高いレベルに達するものと推察される。

(2) プロジェクト目標レベルの有効性

プロジェクト目標：改善された優良事例活用研修（MP3 手法）を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する。

指標	実績の要約											
1. 研修に参加した普及員の 80%が、実際に普及活動において研修で学んだ優良事例を活用する。	1) 事後評価調査結果が入手できた 2 県（スバン・ゴワ）の普及員によれば、両県とも高い割合の受講者が研修後、研修成果を活用していると回答している（表 15）。 <p style="text-align: center;">表 15 2005 年 MP3 研修実施 2 県での普及員事後調査の要約</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">質問項目</th> <th colspan="2">Yes と回答した普及員数</th> </tr> <tr> <th>スバン県 (n=30)</th> <th>ゴワ県 (n=30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) 発掘優良事例を郡レベルの普及計画へ組み入れているか</td> <td>8</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>2) 事例発掘活動とその事例利用を村での農業普及活動計画へ組み入れているか</td> <td>22</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	質問項目	Yes と回答した普及員数		スバン県 (n=30)	ゴワ県 (n=30)	1) 発掘優良事例を郡レベルの普及計画へ組み入れているか	8	23	2) 事例発掘活動とその事例利用を村での農業普及活動計画へ組み入れているか	22	28
質問項目	Yes と回答した普及員数											
	スバン県 (n=30)	ゴワ県 (n=30)										
1) 発掘優良事例を郡レベルの普及計画へ組み入れているか	8	23										
2) 事例発掘活動とその事例利用を村での農業普及活動計画へ組み入れているか	22	28										

	3) 農業普及活動においてMP3研修成果を利用したか	28	-
	4) MP3研修成果が地域の農民に役立ったか	30	-
	5) 研修時に作成した普及教材を研修後活用したか	25	29
	6) 作成した教材活用以外で伝達したか	27	27
	7) 他の農民、農民グループから新規情報を発掘したか	26	10
	8) 他の情報源（優良事例情報集＝バンドン）を活用しているか	24	24
	9) 他の普及員に対する情報発掘/事例教材についての説明をしたか	24	15
	10) 発掘した事例について他の普及員からの問い合わせを受けたか	21	9
	11) F/WIIIでの普及試行に対するモニタリングを実施したか	27	26
	資料：プロジェクト資料「スパン県・ゴワ県MP3研修参加者による研修評価・事後評価」（2006年8月）		
	2) 本調査団がインタビューした東ジャワ州パスルアン県・グレシク県と西ジャワ州スパン県のMP3研修受講普及員は、研修で得た情報を自らの普及活動に利用していると回答した。		
2. MP3手法による普及活動に対する農家の反応。	1) 間接的な指標ながら、前プロジェクトでPIAETS研修を受講したバンドン県普及員のフォローアップ調査の結果（付属資料8）からも、研修受講者が継続的に優良事例を発掘している（72人の普及員が129件の事例を発掘したと報告している）ことが確認された。		
	2) 同じく、バンドン県の普及員に普及サービスを受けている農民及び農民グループで推奨事例を取り入れたと回答しているのはそれぞれ2,139農家、137グループと報告されていることから、間接的にMP3手法による普及活動に対する農家の反応が高いことを確認できる。		

プロジェクト目標の達成度：プロジェクト当初計画で示された、最大7県を超える県においてMP3研修が実施されたが、研修に対する研修員評価と事後追跡調査の結果が回収されているのはその内2県に過ぎないため、現段階では総合的な判定を行うことはできない。しかしながら、2県の調査及び現地調査のインタビュー結果、また間接的な指標ながら、前プロジェクトの追跡調査で示された、MP3研修を受講した普及員のサービスを受けた農民の反応等を見る限り、本プロジェクト目標の達成度は高いレベルに達することが期待される。なお、評価アンケートでプロジェクト関係者が示した「有効性」に関する項目の評価結果は、表16にまとめた通り。

表 16 「有効性」に関する評価アンケートの結果

評価項目		評価点		
中項目	小項目	専門家 (2)	C/P (10)	BDA 教官 (13)
プロジェクト 目標の達成度	対象地域の普及員の MP3 普及手法の獲得状況	4.00	3.30	3.46
	3 つのプロジェクト成果のプロジェクト目標実現への貢献度	4.00	3.50	3.31
外部要因の影響	プロジェクト以外でプロジェクト目標達成に貢献した要因の影響度	4.00	3.70	3.54
	成果からプロジェクト目標に至るまでの外部条件の影響度	4.00	3.30	3.42
	プロジェクト目標達成を阻害する要因の影響度	3.50	3.50	3.54

4-3 効率性

「効率性」は、投入の質、量、手段、時期等の観点から、プロジェクトの投入によって、成果が質、量ともにどれだけ効率的に達成されたかを評価するものである。以下の分析に基づき、本プロジェクトの効率性は、中～高レベルと判断した。

(1) 日本国側からの投入

最終評価アンケートに示された効率性についての回答（表 18）や、インタビュー情報等から、日本国側からの投入（専門家派遣、供与機材、本邦研修、ローカルコスト負担）はいずれも適正に実施され、プロジェクト活動のために効率的に利用されたと判断される。3 年目からは長期専門家が 1 人減員となったが、2 人の専門家と C/P の努力により、プロジェクトの進捗に深刻な影響をもたらすことなく、予定通り活動は実施された。

(2) インドネシア国側からの投入

一方、インドネシア国側からのプロジェクト活動費の拠出が、特に 1 年目はしばしば遅れたことが、プロジェクトの進捗に影響を及ぼした。しかし、これはインドネシア国の予算申請時期（8 月）と本プロジェクトの R/D 締結（10 月）のタイミングのズレに起因する問題で、ある意味不可避であったとも言える。また、プロジェクトの始まった 2004 年には政権交代に伴う予算申請システムの変更があったことや、研修コースをモニタリングするという新しいタイプの活動（MAT 活動）が予算当局に理解されなかったこと等も予算確保を難しくしたと報告された。

2004 年のプロジェクト開始後、予算獲得に向けた努力により、表 8 に示される通り、2 年目からは顕著な増加が見られ、プロジェクト活動の円滑な実施に結びついた。なお、今後の教訓としては、予算不足による 1 年目の活動停滞という事態を避けるためには、プロジェクト開始前に日本国側・インドネシア国側双方による事前準備を行う時間を設定することが有効であったかもしれない。

(3) 費用対効果

適切な基準が無く、プロジェクトの費用対効果を測定することは困難なことは言うまでもない。ここでは、参考までに本件プロジェクトに先行して行われた PIAETS プロジェクトでの投入と比較してみた。もちろん、両プロジェクトでは目指す目的が異なっていたことから単純な

比較は意味をなさないものの、本件プロジェクトへの投入が先行PIAETSと比較しても極端に大きかった訳ではないことは理解できるであろう。当初計画では、プロジェクト期間中に最大で7県の普及員に対してMP3研修を実施することを目標としていたが、本調査が行われた時点で既にこの目標はクリアし、更にインドネシア国側の投入により対象地域が徐々に拡大される状況だったことを考え合わせれば、本件プロジェクトの費用対効果は達成した成果の規模から見ても悪くはなかったものと判断される。

表 17 PIAETS と本件プロジェクトへの投入量の比較

項目	Unit	PIAETS	本プロジェクト
1) 実施期間	月	31	36
2) 長期専門家の派遣	M/M	97.2	96.0
3) 短期専門家の派遣	M/M	11.1	2.4
4) インドネシア国側 C/P の数	人員	7	10
5) 本邦研修に参加した C/P の数	人員	5	7
6) 供与機材の総額	1,000 円	23,500	12,492
7) 日本国側ローカル・コスト負担	1,000 ルピア	1,175,524	2,111,858
8) インドネシア国側ローカル・コスト負担	1,000 ルピア	6,700	2,477,275

資料：大泉泰雅専門家最終報告書（2002年31日）・プロジェクト内部資料

なお、プロジェクト関係者の「効率性」に関する評価結果は、表 18 通り。

表 18 「効率性」に関する評価アンケートの結果

評価項目		評価点		
中項目	小項目	専門家 (2)	C/P (10)	BDA 教官 (13)
活動の貢献	成果（アウトプット）を達成するための活動の貢献度	3.00	3.50	3.15
日本国側の投入の適正度	長期・短期専門家の専門性、資質、派遣人数、日数、タイミングからみた適切性	3.50	3.30	3.08
	供与機材の種類、量、投入タイミングの適性	3.50	3.60	3.00
	本邦研修の対象人数、分野、研修内容、研修期間、実施時期の適切性	4.00	3.30	3.13
	本邦研修で得られた知識・技術の活用度	3.50	3.20	3.08
インドネシア国側の投入の適正度	日本国側ローカルコスト負担の、金額、使途、拠出タイミングからみた適切性	2.50	3.20	2.92
	C/P の人数、配置、能力の適切性	2.50	3.10	3.23
	土地、建物、施設の規模、質、利便性	3.00	3.50	3.08
類似プロジェクトとの比較	インドネシア国側が拠出したプロジェクト活動予算額の適正度	3.00	3.70	3.25
	総投入コストの、アウトプット、裨益農家数等の面からの適正度	3.00	3.20	3.17
前提条件の影響	実施期間（3年間）の、アウトプット、裨益農家数等の面からの適正度	3.00	3.10	3.00
	1つ目の前提条件の影響度	3.00	3.30	3.15
	2つ目の前提条件の影響度	3.50	3.30	3.23
外部要因の影響	3つ目の前提条件の影響度	3.00	3.10	2.33
	予期せぬ外部要因の影響度	3.00	2.30	3.15

4-4 インパクト

この項目は、プロジェクトが上位目標として設定した「農家の営農改善」に結果的にどの程度貢献したか、あるいは貢献する見込みがあるか、また、計画当初予想されなかった対象地域の農業普及員や農民等に与えた影響を、プラス・マイナス両面から分析・評価するものである。本件プロジェクトの正のインパクトは、以下の分析に基づき中程度と判断した。

農業普及員の研修システムや普及サービスの改善に対して、これまでに発現した、あるいは今後発現することが期待できる正のインパクトがあることは明かである。例えば、以下が挙げられる。

- 1) 農業普及をボトムアップの参加型アプローチで行うというのは、インドネシア国ではまだ新しい概念であったが、本件プロジェクトの実施を通して、全国の国立訓練センターで、普及員が参加型普及アプローチを習得するための研修の実施が可能になった。
- 2) プロジェクトの結果、参加型普及アプローチの重要性を認識する地方政府（県）の数が徐々に増加している。
- 3) MP3 研修で推奨される普及手法を実践することで、農業普及サービスの全体的な改善につながっている。

本調査団が調査期間中に訪問した訓練センターの職員へのインタビューでは、各センターともMP3 研修の内容や重要性をよく理解しており、他の研修コースでも同手法を紹介したり、その一部を取り入れたりしていることが確認された。本プロジェクトは、訓練センターの教官や普及員に今までとは異なった普及手法を取り入れる機会を提供したという意味で、大きなインパクトをもたらしていると言える。

一方で、「(対象地域) 農家の農業経営が改善される」とする上位目標に対して、本件プロジェクトが果たしてどの程度のインパクトをもたらしたか、あるいはもたらすかという点に関しては、今回の調査では評価することが困難であった。その理由として、以下が挙げられる。

- 1) PDM で示された上位目標とプロジェクト目標の間に論理的な飛躍があったこと。
- 2) 本件プロジェクトは、上述の様に普及員の能力向上に大きく貢献していることは明白であるものの、農業経営の改善という大きな目標が達成されるためには、PDM には必ずしも示されていない他の多くの外部条件が満たされる必要がある。例えば、調査団がインタビューした多くの普及員（MP3 参加者）が普及活動を行う上で最も大きな課題として、活動費や普及資機材の不足をあげていた。また、農民（グループ）は農業経営上の最も大きな課題として、農薬や化学肥料のコスト高をあげていた。しかしながら、こうした外部条件は本件プロジェクトの取り組みだけで解決される課題ではない。つまり、上位目標が達成されるためには、こうした阻害要因を取り除くために、他にも多くの取り組みが必要とされていると言える。
- 3) プロジェクト活動の一環として上位目標へのインパクトを客観的に証明するための総合的な調査はまだ実施されていないこと⁴。

平成 14 年（2002 年）5 月に作成された本件プロジェクトの第 1 次事前評価調査報告書（案）には、実は上記の様な外部条件があることが指摘されていた（同報告書 p.31）。同報告書では、そう

⁴ プロジェクト関係者によれば、農民へのインパクト調査は、プロジェクト終了後、数年してから実施されると理解されているとのことであった。

した課題について引き続き検討することが提言されていたものの、その後、指摘事項については十分な検討が為されないままプロジェクトは開始された模様である。PDM の論理関係や外部条件については、開始前、あるいは開始直後のいずれかの段階で再検討する必要があるものと考えられる⁵。

なお、プロジェクト関係者の「インパクト」に関する評価結果は、表 19 の通り。

表 19 「インパクト」に関する評価アンケートの結果

評価項目		評価点		
中項目	小項目	専門家 (2)	C/P (10)	BDA 教官 (13)
上位目標の達成見込み	上位目標がプロジェクトの効果として達成される見込み	3.00	3.40	3.31
因果関係・外部条件	上位目標とプロジェクト目標の乖離	3.00	3.10	3.31
	プロジェクト目標から上位目標に至る1番目の外部条件の影響	4.00	3.00	3.46
	プロジェクト目標から上位目標に至る2番目の外部条件の影響	4.00	3.40	3.08
	上位目標の達成を阻害する要因	4.00	2.50	3.31
波及効果	政策、制度、社会経済、技術面等へのプラスの効果・影響	3.50	3.10	3.18
	政策、制度、社会経済、技術面等へのマイナスの効果・影響	0.00	3.00	3.13

4-5 自立発展性

この評価項目は、協力が終了した後、プロジェクトによって生じた便益（成果）が自立発展的に持続して行けるかどうかを制度、組織、技術、財政的な観点から分析・評価するものである。本件プロジェクトの自立発展性は、以下の分析により「高い」と判断した。

(1) 技術的・組織的な持続発展性

これまでに議論してきた通り、本件プロジェクトの上位目標へのインパクトは不明瞭ながら、設定されたアウトプットとプロジェクト目標の達成度は高いレベルに達することが見込まれる。プロジェクト活動の結果、全国7つの国立訓練センターの教官は、普及員に対してMP3研修を実施するために必要な知識と技能を満足なレベルで獲得しており、これらの教官は、外部からの技術的な支援が無くても、プロジェクト終了後にMP3研修を継続できる状況にある。また、本調査団が訪れた訓練センターでは、来年以降もMP3研修を継続的に実施する意向であることが確認された。従って、技術的、組織的な意味での持続発展性は高いと判断された。

(2) 財政的な持続発展性

一方、来年以降、各センターがMP3研修を引き続き実施できるかどうかは、それを可能とする資金が確保されるかどうかに影響される。プロジェクト実施期間中は、研修に係る経費は、中央政府（訓練センター）、地方政府とJICAの間でシェアされた（表20参照）。終了後は、

⁵ 上位目標とプロジェクト目標に論理的な飛躍があったため、本件プロジェクトはMP3研修の全国展開が中心か、MP3研修の制度化を目指すのか、あるいはMP3を活用しながら地方自治体（県）の普及活動を改善し、その地域の営農改善につなげることを目指すのか、全体的な理解の共有ができないままであったという指摘があった。

中央政府と地方政府によってこの経費がまかなわれる必要がある。この点について、人材開発庁本庁は、各訓練センターに対して来年度の予算に MP3 研修経費を含めるよう指導したという。本調査団が訪問した全てのセンターでは、その手配はすでになされていることが確認された。また、MP3 研修を普及員に受講させることを希望している県がすでいくつか候補になっており、そうした県では研修への経費を自ら負担する意思を表明しているという。こうした状況から、最も懸念される財政的な持続発展性についても、ある程度高いものと判断される。

表 20 普及員 30 人を対象とした MP3 研修実施に必要な経費と支出分担

(単位：1,000 円^ア)

年度 支出費目	2005 年				2006 年			
	合計	支出負担			合計	支出負担		
		人材開発庁	県	JICA		人材開発庁	県	JICA
日当	36,040	25,540	7,200	3,300	64,790	30,540	30,950	3,300
研修資材	11,000	11,000			11,000	11,000		
旅費	32,880	23,880	6,600	2,400	43,880	14,520	26,960	2,400
その他	53,800	8,500		45,300	58,900	8,500		50,400
合計	133,720	68,920	13,800	51,000	178,570	64,560	57,910	56,100
割合 (%)	100	52	10	38	100	36	32	32

資料：プロジェクト内部資料

(3) その他、持続発展性を確保するための取り組み

更に、本件プロジェクトのプロジェクト・マネージャーの地位にあった人材開発庁訓練開発局長からは、本調査団に対して、持続性を確保するための手段として以下のことを考えているとの報告があった。

- 1) 中央政府の予算を使って、MP3 研修を継続する様に各訓練センターに通達する。
- 2) MP3 研修手法を他の組織（総局や州立訓練センター）でも採用される様に手法の紹介を積極的に行う。
- 3) MP3 研修で発掘された優良事例を、来年 8 州 8 県で 2KR（食糧増産援助）の見返り資金によって実施する計画の P4S（農民の農業・農村訓練センター）プロジェクトでも活用する。
- 4) 人材開発庁が主体となって 18 州 64 県を対象に近々開始されることになっている世銀融資事業「農業技術・情報伝達による農民エンパワーメントプロジェクト（FEATI）」で MP3 研修の手法を活用する。

プロジェクト関係者のアンケートで「自立発展性」に関する項目の評価結果は、表 21 にまとめた通り、高い総合評価点が示された。

表 21 「自立発展性」に関する評価アンケートの結果

評価項目		評価点		
中項目	小項目	専門家 (2)	C/P (10)	BDA 教官 (13)
政策・制度面	協力終了後、MP3 手法が活用されていくために必要な政策や制度的な環境条件	4.00	3.70	3.42
財政面	実施機関の予算措置、予算確保のための対策状況（見込みがあるか）	4.00	3.50	3.13
組織面	実施機関の組織的な（人材配置、意思決定プロセス等）整備状況	4.00	3.50	3.23
技術面	MP3 手法の、BDA 教官、普及員による受容度	4.00	3.80	3.50
	協力終了後、各 BDA が MP3 手法を維持・活用できる見込み	4.00	3.90	3.25
	協力終了後、本プロジェクト対象外の BDA や県に普及する見込み	4.00	3.90	3.10
総合的自立発展性	本プロジェクトによるインパクトの総合的な持続性の見込み	4.00	3.60	3.08
「自立発展性」についての総合評価（項目別評価点の平均）		4.00	3.70	3.24

第5章 結論と提言

5-1 結論

以上、本調査の結果とその分析から、本件プロジェクトの活動は、日本人専門家とインドネシア側 C/P による密接な協力により、計画に沿って順調に実施されてきたと結論付けることができる。設定された成果とプロジェクト目標は、来年1月4日のプロジェクト終了日までにはほぼ達成される見込みである。その意味で、プロジェクトは「成功」しつつあると言えよう。プロジェクトの進捗に貢献した要因としては、プロジェクトの目標達成に向けた日本国側・インドネシア国側双方関係者の努力と良好な関係、C/P や訓練センター教官のプロジェクトの推奨する技術（手法）に対する理解と高い吸収能力等があった。

一方、プロジェクト・デザインの問題として、上位目標とプロジェクト目標の間の論理的な飛躍があったことが確認された。インドネシア国の農業普及サービスを農村コミュニティにとって有益なものとし、上位目標である「農業経営の改善」を達成していくためには、本件プロジェクトによる取り組みだけでなく、他にも多くの努力が継続される必要があるものと考えられる。

以上により、本件プロジェクトでの成果は有効に活かされ、インドネシア国における農業セクターの更なる発展につながっていくことが期待される。

5-2 提言

本件プロジェクトの終了までに、以下のことが取り組まれる様に提言した。

- (1) フォローアップ・ワークショップ：プロジェクトは、MP3 研修を各地で実施した国立訓練センターの教官の参加を得て、10月にフォローアップ・ワークショップを実施することを計画している。当ワークショップは、本件プロジェクトの総括的な意味を持つとともに、教官がお互いの経験を共有し MP3 研修のやり方について見直しを行う上で、貴重な機会になるものと考えられる。今回の調査で、MP3 の TOT へ参加していない教官も、普及員へ MP3 研修を行う際には積極的に関与し、重要な役割を果たしていることが確認された。従って、ワークショップには TOT に参加していない教官にも参加のチャンスが与えられるよう留意する必要がある。
- (2) 啓発活動：MP3 研修を実施するための経費は、中央政府と県政府の間で折半されることから、今後、同研修が継続的に拡大されていくためには、その利点を認識する県政府の数を増加させていく必要がある。従って、今後も人材開発庁訓練開発局と各訓練センターは、県政府当局に対して MP3 手法の啓発活動を継続することが求められる。その一環として、これまでに MP3 研修に参加した普及員やその普及員からサービスを受けた農民からの意見に基づいて、MP3 手法の効果を紹介する印刷物（リーフレット、パンフレット等）を制作し、配布することは有意義と考えられる。
- (3) 中期的な行動計画：本調査中、訓練開発局、各訓練センターで、プロジェクト終了後も MP3 研修を継続する意思が確認された。2007年には、最低1県を対象にした研修が実施される様に、MP3 用の予算も生まれ、いくつかのセンターでは対象県の選定も始めている。2007

年以降も継続的に MP3 対象地域が広がっていく様に、プロジェクト終了までに向こう 3～5 年間の行動計画を策定する。この行動計画では、啓発、研修、評価に関する活動内容とそのスケジュールを明らかにするとともに、2KR 見返り資金による P4S 訓練プロジェクトや世銀融資による FEATI 等、他のプロジェクトとの連携についても留意する必要がある。

また、来年 1 月のプロジェクト終了後、引き続き取り組む事項として、以下のことを提言した。

- (1) 予算の確保：策定した中期的な行動計画に基づいて、人材開発庁訓練開発局は、各訓練センターが対象県の普及員に対して MP3 研修を継続できる様に、予算の確保を確実に行うことが求められる。
- (2) 研修後評価：本調査が実施された時点では、MP3 研修後評価調査は研修が行われた 7 県の内 2 県だけでしか実施されていなかった。本件プロジェクトの結果を把握するために、全ての訓練センターで研修後評価調査を実施し、結果をまとめる必要がある。
- (3) インパクト調査：プロジェクト期間中に上位目標として設定されていた「農業経営の改善」に対する MP3 研修のインパクトを客観的に測定できる様な、総合的な農民調査は実施されなかった。プロジェクト終了後数年内に、人材開発庁は訓練センターや県政府と協力して、インパクト調査を実施する必要がある。この調査では、研修を受講した普及員が何件の優良事例を農民に指導したか、プロジェクト終了後、その内の何件の事例が実際に農民によって取り入れられたか、それらの事例は農業経営改善の観点からいかに有効であったかといった内容が網羅される必要がある。
- (4) データベースの利用：プロジェクトで作成された優良事例のデータベースは、農業普及活動を行う上で貴重な情報源となる。データベースの普及は、プロジェクトで直接ターゲットとすることのできなかつた地域を裨益させる 1 つの手段と考えられる。人材開発庁は、農業省内に新たに設置された「データベース・ユニット」等と協力して、プロジェクト終了後もその有効活用に努める必要がある。
- (5) 機材の利用：プロジェクトで供与された機材は、プロジェクト終了後も MP3 研修普及を目的とした活動のために、未永く有効に使われる努力が求められる。
- (6) 人材開発庁内の連携：MP3 を更に改善し、より高いレベルの目標を達成するための農業普及サービスが実現される様に、人材開発庁内の様々な部署の連携を密にすることが不可欠である。差しあたって、訓練センター間や庁内のデータベース・ユニットを結ぶネットワークを構築することが有効と考えられる。
- (7) 他のプロジェクトでの活用：同様に、農業普及に関係する他のドナー支援プロジェクトとの連携を密にすることが求められる。訓練開発局は、2KR 見返り資金による P4S 研修プロジェクトや世銀融資の FEATI プロジェクト、あるいは国際農業開発基金 (IFAD) 融資による

農村エンパワーメント農業開発（READ）プロジェクト等で、本件プロジェクトの成果が活用される様に中心的な役割を果たすことが期待される。

- (8) 他の国々との経験の共有：インドネシア国もメンバーとして参加している ASEAN 農業研修・普及ワーキンググループ（AWGATE）等の場で、MP3 手法の経験を共有することは積極的に推められるべきである。本調査団に対し、インドネシア国側から他の国で実施されている参加型農業普及に関する類似プロジェクトの経験や情報をシェアできる機会が持てる様に要請があった。その様な活動は、他の国にとっても有意義なものとなることが期待できるので、JICA としても今後検討するに値するものと考えられる。

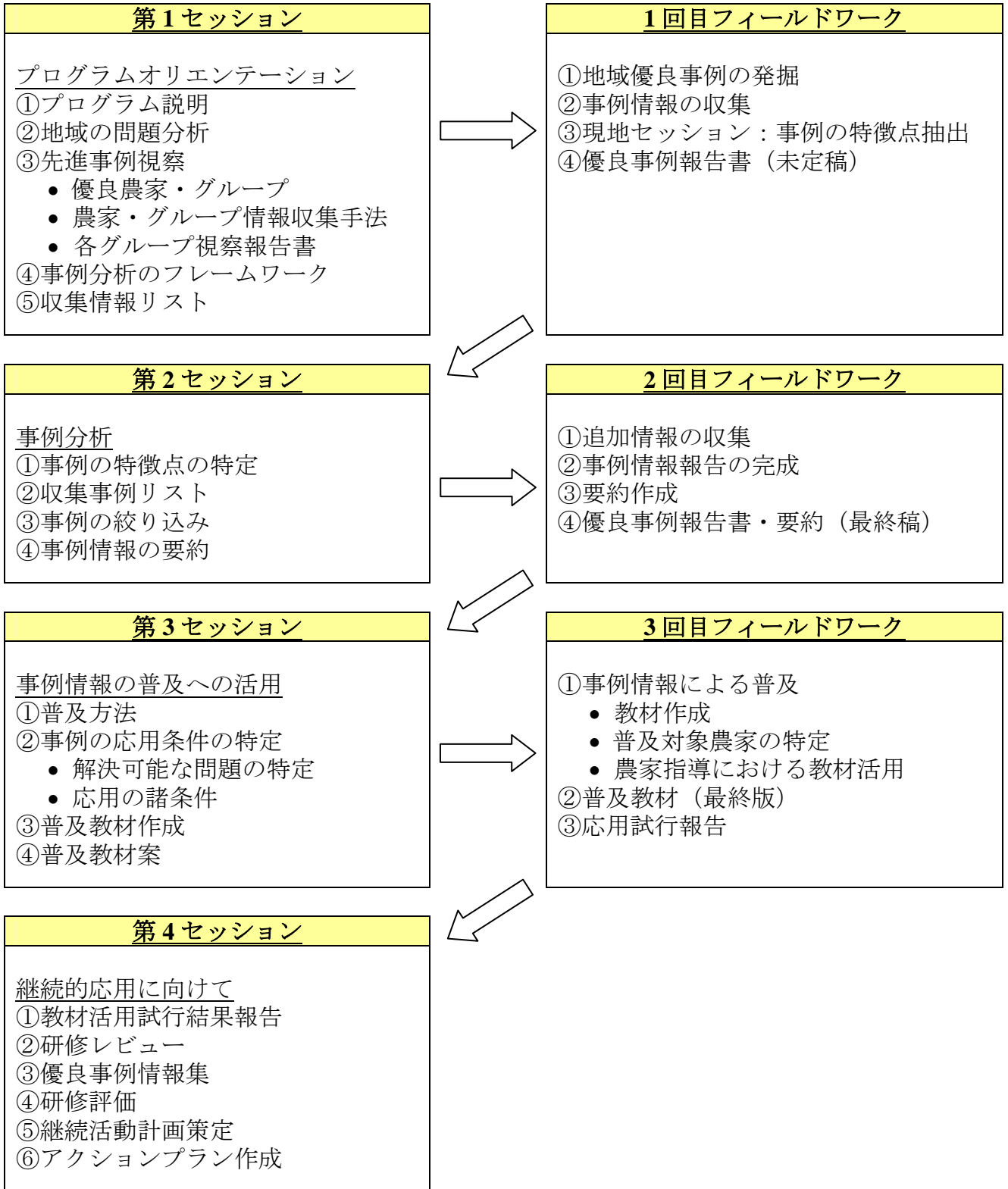
以上の提言に対する実際の取り組みを、JICA インドネシア事務所が、プロジェクト終了後も引き続きモニターすることをプロジェクト関係者に伝えた。

(了)

付 属 資 料

1. プロジェクトで取り組まれた MP3 研修手法の概要
2. 地方調査における主要面談者リスト
3. 評価グリッド
4. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 最終版
5. 主な参考文献・資料リスト
6. プロジェクト期間中に実施された研修・セミナー
7. プロジェクト概念図
8. 前プロジェクト (PIAETS) の研修を受講したバンドン県普及員によるその後の活動についての調査結果 (要点)
9. 最終評価調査結果に関するミニッツ

付属資料 1 プロジェクトで取り組まれた MP3 研修手法の概要



付属資料 2 地方調査における主要面談者リスト

訪問日	訪問場所	面会者
9月6日	東ジャワ州バトゥ農業教育訓練センター	Mr. Subagyo Sumiaufous (センター教官) Mr. Agus SB (〃) Mr. Bomlong Edfoutoso (〃) Mr. Hardianto (〃)
9月6日	東ジャワ州ケティンダン農業教育訓練センター	Mr. Djoko Sumianto, SP (センター教官) Mr. Karel D. I. Sir (〃) Mr. Saeroji, SP (〃) Mr. Apri Handono (〃) Mr. Tri Handajari (〃)
9月7日	東ジャワ州パスルアン県 ゴンダ・ウェタン (Gonda Wetan) 郡	ゴンダ・ウェタン郡長官 Mr. Bakti 郡内農業普及員 8人 “Sidobukti”農民グループのリーダー及びメンバー 約15人
9月7日	東ジャワ州パスルアン県 プスポ (Puspo) 郡	郡内農業普及員 約5人 “Karitini”女性農民グループのリーダー及びメンバー 約10人
9月7日	東ジャワ州パスルアン県 ト・サリ (To Sari) 郡	郡内農業普及員 2人 “Sembada”農民グループのメンバー3人
9月7日	東ジャワ州グレシク県 メンガンティ (Menganti) 郡	県議会議員 1人 県事務所普及員 1人 郡内農業普及員 約15人 “Rahayu”農民グループのリーダー及びメンバー約20人
9月11日	西ジャワ州カユアンボン・アグリ ビジネス農業教育訓練センター	Drs. Suryowihardi (センター所長) Mr. Asep Adinata (センター教官 (C/P)) Mr. Oman Abdurachman (〃) Mr. Dadi Sumardi (センター教官 (C/P)) Mr. Rokedhi (センター教官) Mr. Anwar Syarif (〃) Mr. Yusup Hidayat (〃) Ms. Ermina Yogasuria (〃) Ms. Erina Herdiani (センター職員)
9月12日	西ジャワ州スバン県農業事務所	所長他、農業普及員3人
9月12日	西ジャワ州スバン県ビノン (Binong) 郡農業普及センター (KPPP)	郡内農業普及員8人 優良経営農家1軒
9月12日	西ジャワ州スバン県 バトゥク・ベウス (Batuk Benus) 郡 農業普及センター (KPPP)	センター所長他、郡内農業普及員1人 “Sari Ashi”農民グループのリーダー及びメンバー3人

付属資料3 評価グリッド

(1) プロジェクトの実績

評価の視点・項目	評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
投入実績(実績の記載のみ)	1 専門家派遣(分野、資格、人数、派遣のタイミング)	専門家(長期・短期)派遣の記録	プロジェクト進捗報告書、専門家業務完了報告書
	2 C/P研修(研修分野、内容、人数、実施タイミング)	研修実績(人数、期間、研修内容)	プロジェクト進捗報告書、研修員レポート
	3 供与機材(投入機材の種類、数量、使用目的、調達のタイミング)	供与機材リスト、調達の記録	供与機材実績表
	4 ローカルコスト(プロジェクト運営費負担(現地活動費予算額と支出内容、拠出タイミング))	現地活動費負担(現地活動費予算額と支出内容、拠出タイミング)	現地活動費会計報告書
	5 C/Pの配置(人数、職位、交代の有無)	C/Pの配置の有無	C/P配置実績表
	6 プロジェクト関連経費の予算と投入金額、拠出タイミング	プロジェクト関連経費の予算と投入金額、拠出タイミング	インドネシア国実施機関の予算書と会計記録
	7 土地、建物、施設の提供、日本国側で供与されたい必要機材の購入、機材の更新	土地、建物、施設の提供、日本国側で供与されたい必要機材の購入、機材の更新	プロジェクト進捗報告書、インドネシア国側の記録
	8 指標1-1、「研修プログラム、マニュアルが調査・分析に基づき適切に改善される」はどの程度達成されるか	指標1-1、「研修プログラム、マニュアルが調査・分析に基づき適切に改善される」はどの程度達成されるか	改訂版マニュアル、研修プログラムの改善点の要約、改善点に対する教官・受講者の反応・評価
	9 指標1-2、「構築された(優良事例)データベースが、各センター教官と普及員に維持、活用される」はどの程度達成されるか	指標1-2、「構築された(優良事例)データベースが、各センター教官と普及員に維持、活用される」はどの程度達成されるか	教官・普及員による(優良事例)データベース使用方法についての理解度、情報の更新、アクセス頻度
	10 指標2-1、「カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官が自ら講師訓練を実施し、モニタリング、評価で「より効率的な生産活動、より高付加価値の生産物、より活性化したグループ活動等の観点から、農業経営(技術)の改善状況」はどの程度確認できるか	指標2-1、「カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官が自ら講師訓練を実施し、モニタリング、評価で「より効率的な生産活動、より高付加価値の生産物、より活性化したグループ活動等の観点から、農業経営(技術)の改善状況」はどの程度確認できるか	カユアンボン・アグリビジネス農業教育訓練センターの教官による自己評価、専門家・センター長による評価
	11 指標3-1、「MP3手法を実施する県」はいくつになるか	指標3-1、「MP3手法を実施する県」はいくつになるか	MP3手法を実施する県のリスト
	12 指標3-2、「研修内容に対し、理解や活用可能性を示す研修受講者が80%を上回る」は達成されるか	指標3-2、「研修内容に対し、理解や活用可能性を示す研修受講者が80%を上回る」は達成されるか	研修講師による評価、参加者の事後評価
	13 指標4、「プロジェクト目標「改善された優良事例活用研修(MP3手法)を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する」の達成度	指標4、「プロジェクト目標「改善された優良事例活用研修(MP3手法)を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する」の達成度	研修事後評価アンケート、普及員・センター所長・普及員からサーベイスを受けた農民インタビュー、アンケート
	14 指標5、「上位目標「MP3研修の実施をとおして、選択地域の)農業経営が改善される」の達成見込み	指標5、「上位目標「MP3研修の実施をとおして、選択地域の)農業経営が改善される」の達成見込み	研修事後評価アンケート、研修受講普及員、BDA所長、普及員からサーベイスを受けた農民インタビュー、アンケート
	実施プロセス	16 投入、活動の進捗状況	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見
17 モニタリングは、適切に行われたか		プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー
18 PDM・POの軌道修正は適切に行われたか		PDM・PO見直しの記録、専門家・C/Pの意見	PDM・POのレビュー、プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー、アンケート
19 日本人専門家とC/P間で日常的なコミュニケーション・情報共有は、行われていたか		プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー
20 定例会議、合同調整委員会(JCC)は開催され、課題解決のために機能したか		定例会議の開催記録、出張、JCCの議事録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、月報、会議議事録、専門家・C/Pインタビュー、アンケート
21 JICA(本部・在外事務所)とプロジェクト間のコミュニケーションは良好だったか		プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・JICA事務所インタビュー、アンケート

評価の視点・項目	評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法	
実施プロセス	実施機関のオーナーシップ	インドネシア国側実施機関責任者、C/Pのプロジェクト活動への参加は十分であったか	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー、アンケート	
	他のプロジェクトとの連携	実施機関によるプロジェクト活動予算の手当は十分になされたか	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見、アンケート	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー、アンケート
		他のプロジェクトとの連携はあったか	他のプロジェクトとの連携はあったか	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー、アンケート
		実施機関の組織改編、人事異動(責任者・C/P)はプロジェクトの進捗に影響したか	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、月報、専門家・C/Pインタビュー、アンケート
		実施プロセスにおける留意点・阻害要因	プロジェクトの実施プロセスで生じている問題や、効果発現に影響を与えた阻害要因はあったか	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見
				プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見
(3) 5項目評価				
妥当性	プロジェクトの必要性	協力内容は農業省、農業人材開発庁(AAHRD)、国立農業教育訓練センター(BDA)のニーズに合致していたか	農業省・AAHRD政策担当者、BDA教官の意見、農業開発計画政策文書	
		協力内容は対象グループ(対象地域の農業普及員)のニーズに合致していたか	BDA教官・対象地域普及員の意見	
		プロジェクトが設定した目標は、インドネシア国の国家開発計画、農業省の開発政策との整合性があり、優先度が高かったか	国家開発計画・農業開発計画政策文書、専門家・C/Pの意見	
		日本国の援助政策(外務省国別計画、JICA国別事業実施計画)との整合性はあったか	対インドネシア国国別援助計画、JICA事業実施計画、外務省・JICA担当者の意見	
		「改善されたMP3手法を使って普及員を研修することによって、農業経営を改善する」というプロジェクト・アプローチは、農業省の開発戦略として適切だったか	農業省・AAHRD政策担当者の意見、農業開発計画政策文書	
		プロジェクトの対象地域(BDAが所在する7県)、プロジェクトサイト(カエンボン農業教育訓練センター)の選定は農業省の開発戦略に照らして適切だったか	農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pの意見	
有効性	手段としての適切性	ターゲットグループ(BDA教官・農業普及員)の絞り込みは、農業省の開発戦略に照らして適切に行われたか	BDA教官・専門家・C/Pの意見	
		ターゲットグループ以外への波及性はあったか(今後期待できるか)	BDA教官・専門家・C/Pの意見	
		日本国の技術の優位性はあったか(終了技プロ、その他、我が国の経験・ノウハウが活かされたか)	専門家・C/P・JICA事務所プロジェクト担当者インタビュー、アンケート	
		対象地域の普及員は、改善された優良事例活用研修(MP3)を通して、普及手法を獲得する見込みは高いか	(「プロジェクトの実績」参照)	
		プロジェクトの3つの成果(アウトプット)は、プロジェクト目標の達成に貢献しているか	BDA教官・専門家・C/Pの意見	
		プロジェクト以外にプロジェクト目標達成に貢献した要因はあるか	BDA教官・専門家・C/Pの意見	
活動の貢献	外部要因の影響	成果(アウトプット)からプロジェクト目標に至るまでの外部条件「普及システムに大きな変更がない」の影響はあったか	BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート	
		プロジェクト目標達成を阻害する要因はあったか	BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート	
		成果(アウトプット)を達成するために十分な活動が計画され、タイミングよく実施されたか	BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート	
		長期・短期専門家の専門性、資質、派遣人数、日数、タイミングは適切だったか	BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート	
		供与機材の種類、量、投入タイミングは適切だったか	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pの意見	
		本邦研修の対象人数、分野、研修内容、研修期間、実施時期は適切だったか	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/P(特に受講者)の意見	
日本国側の投入の適性度	活動の貢献	本邦研修で得られた知識・技術は帰国後に活用されているか	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/P(特に受講者)の意見	
		日本国側のローカルコスト負担は、金額、用途、拠出タイミングからみて適正だったか	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pの意見	
			プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー	
			プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー	
			プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー	
			プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー	

評価の視点・項目	評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
効率性	インドネシア国側の投入の適性	C/Pの人数、配置、能力は適切だったか 47 土地、建物、施設の規模、質、利便性に問題はなかったか 48 インドネシア国側が拠出したプロジェクト活動予算額は、適正規模だったか 49 総投入コストは、アウトプット、裨益農家数等の面から類似プロジェクトと比較して適正だったか 50	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、類似プロジェクトの報告書レビュー
	類似プロジェクトとの比較(コスト)	前提条件①「BDDA/BDAでのMP3研修予算がインドネシア国側で確保される」の影響はあったか 51 前提条件②「モデル地域のBDA研修施設が十分である」の影響はあったか 52 前提条件③「カヌアンボン/BDAとその他のBDA、県政府との協力関係が十分である」の影響はあったか 53 活動からアウトプットに至るまでに何か外部条件の影響はあったか 54 プロジェクト以外に効率性を促進した要因はあったか 55 効率性を阻害した要因はあったか 56	プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、BDA教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート
インパクト(予測)	上位目標の達成見込み	上位目標「MP3研修の実施を通して、選択地域(農民の)農業経営が改善される」は、プロジェクトの効果として達成される見込みがあるか 57 上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか 58 プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件「MP3手法が継続して改善される」が、満たされる可能性は高いか 59 プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件「地方政府による普及活動が現行レベルで実施される」が、満たされる可能性は高いか 60	PDMのレビュー、専門家・C/Pインタビュー、アンケート PDM、専門家・C/Pの意見 PDM、AAHRD政策担当者・専門家・C/Pの意見 PDM、AAHRD政策担当者・専門家・C/Pの意見 プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート
	波及効果	政策、制度、社会経済、技術面等で、上位目標以外のプラスあるいはマイナスの効果、影響があったか 62 協力終了後も、当該プロジェクトで改善されたMP3手法をインドネシア国における農業普及サービスの主要手段として普及・活用していくために必要な政策や制度的な環境はどの程度整備されているか(見込みがあるか) 63 同様な目的のために、実施機関の予算措置は十分に講じられているか、予算確保のための対策はどの程度行われているか(見込みがあるか) 64 同様な目的のために、実施機関の組織的な整備(人材配置、意思決定プロセス等)はどの程度行われているか(見込みがあるか) 65	プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pインタビュー、アンケート プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート
自立発展性(予測)	組織	プロジェクトで推奨された手法(MP3)は、各センター教官、普及員に受け入れられているか 66 協力終了後、対象各センターが当該手法を維持できる見込みはどの程度あるか 67 協力終了後、本プロジェクト対象外のBDAセンターや県に普及する見込みはどの程度あるか 68	BDA所長・教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート BDA所長・教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート BDA所長・教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート BDA所長・教官・専門家・C/Pインタビュー、アンケート 農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート
	総合的自立発展性	本プロジェクトによるインパクトの総合的な持続性は、どの程度見込めるか 69	農業省・AAHRD政策担当者・専門家・C/Pインタビュー、アンケート

付属資料 4:インドネシア農業経営改善のための普及員訓練計画 PDM

期間: 3 年間 (2004 年1月~2006 年 12 月)

対象地域: BDA が選択する 7 県(最大) 対象グループ: 対象県の BBDAs/BDAs 教官、上級・フィードレレベルの農業普及員

2003.10.20. 作成
2004.08.18. 修正

プロジェクトの要約	指 標	指標データ入手手段	外部条件
<p>上位目標: MP3 研修の実施を通して、選択地域(農民の)農業経営が改善される。</p>	<p>農業経営(技術)の改善状況(例:より効率的な生産活動、より高付加価値の生産物、より活性化したグループ活動)</p>	<p>農家のサンプル調査</p>	
<p>プロジェクト目標: 改善された優良事例活用研修(MP3 手法)を通じて、選択地域の普及員が普及手法を習得する。</p>	<p>1. 研修に参加した普及員の80%が、実際に普及活動において研修で学んだ優良事例を活用する。 2. MP3 手法による普及活動に対する農家の反応</p>	<p>1. 受講者への研修事後評価アンケートの結果、プロジェクト報告書 2. 農家のサンプル調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> MP3 手法が継続して改善される。 地方政府による普及活動が、現行レベルで実施される。
<p>成果(アウトプット): 1. MP3 手法研修プログラムが、カユアンボン農業教育訓練センター(BDA)で、改善される。 2. カユアンボンBDAで、優良事例活用研修の講師訓練プログラムが確立される。 3. MP3 手法研修プログラムが、選択地域(*)で適用される。</p>	<p>1-1. 研修プログラム、マニュアルが調査報告や分析に基づき改善され、マニュアルが改訂される。 1-2. 構築された(優良事例)データベースが、各センター教官と普及員に維持、活用される。 2-1. カユアンボン訓練センターの教官が自ら講師訓練を実施し、モニタリング、評価ができる様になり、マニュアルを改善する。 3-1. MP3 研修が実施された県の数。 3-2. 80%の研修受講者が、研修内容に対し理解や活用可能性を示す。</p>	<p>2-1. プロジェクト報告書 2-2. 研修マニュアル改訂版 2-3. (優良事例)データベースの維持・活用に係る調査 2-4. プロジェクト報告 2-5. TOT マニュアル 3-1. プロジェクト報告 3-2. 受講者への研修内容に係わるアンケート</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普及システムに、大きな変更が無い。
<p>活動: 1. MP3 研修プログラムの改善 1-1. 前プロジェクトの PIAETS 手法試行研修参加者のフォローアップを行う。 1-2. 農民組織の運営やマーケティング等の概念を研修に取り入れる。 1-3. 前プロジェクトで開発された研修マニュアルを改訂する。 1-4. 優良事例データベースを構築、運用する。 2. TOT 研修の実施 2-1. TOT の計画を策定する。 2-2. BDA 教官及び県の上級普及員に対する TOT を実施する。 2-3. TOT 受講者による研修活動をフォローアップする。 2-4. TOT マニュアルを改訂する。 3. MP3 研修手法の他地域への展開 3-1. 選択された県の普及員対象に改善された MP3 手法の研修を行う。 3-2. 選択された地域における MP3 手法の成果をモニタリング・評価する。</p>	<p>投入: 日本国側 1. 専門家派遣 長期専門家(3人) - チーフアドバイザー - 業務調整員 - 研修 - 農業普及 * チーフアドバイザーか調整員は、研修が農業普及を兼務する。 短期専門家(必要に応じて) 2. C/P 研修 3. 供与機材</p> <p>インドネシア国側 1. C/P - プロジェクト・ディレクター - プロジェクト・マネージャー - 研修 - 普及 - その他 2. 専門家執務室 3. 研修施設 4. ローカルコスト(旅費等)</p>	<p>前提条件: • BBDAs/BDA での MP3 研修予算がインドネシア国側で確保される。 • モデル地域の BDA 研修施設が十分である。 • カユアンボン BDA とその他の BDA、県政府との協力関係が十分である。</p>	

BDA: 国立アグリビジネスマ職員訓練センター

(*) 県の選択は、各 BDA が行い、プロジェクト側はそれを是認する。

付属資料 5 主な参考文献・資料リスト

1. 「インドネシア国自立した農業普及員による農業経営改善を目指す農業グループ育成訓練計画」第1次事前評価調査団報告書（案）、国際協力事業団、平成14年5月
2. 「インドネシア国農業経営改善のための農業普及員訓練計画」第2次事前評価調査団報告書（案）、国際協力事業団、平成15年3月
3. 「インドネシア国農業経営改善のための農業普及員訓練計画」第3次事前評価調査団報告書（案）、国際協力事業団、平成15年8月
4. 技術協力プロジェクト新規案件事前評価結果（JICA 内部資料）、平成15年10月
5. 「インドネシア国農業普及・研修システム改善計画終了時評価報告書」、国際協力事業団、平成13年12月
6. 「農業普及・研修システム改善計画長期専門家総合報告書」、及川章・大泉泰雅・赤松啓子専門家、平成14年3月
7. 「インドネシア国農水産業分野プロジェクト形成調査ファイナルレポート」、国際協力事業団、2001年10月
8. 「対インドネシア国別援助計画」、日本国外務省、平成16年11月
9. 「インドネシア国農水産業セクタープログラム開発計画調査ファイナルレポートセクタ分析編」、日本工営（株）、平成17年6月
10. 「JICA 国別事業実施計画：インドネシア国」、国際協力機構、平成18年3月
11. Record of Discussions, October 29, 2003.
12. Project Design Matrix and Tentative Schedule of Implementation, October 29, 2003.
13. 西村美彦短期専門家・業務完了報告書、平成16年8月28日
14. 板垣啓子短期専門家・業務完了報告書、平成16年10月12日
15. 技術協力プロジェクト事業進捗状況報告書：第1～4号（プロジェクト内部資料）
16. Progress Report: No.1-4（プロジェクト内部資料）
17. 技術協力プロジェクト月次報告書：2004年1+2月分～2006年7月分（プロジェクト内部資料）
18. 「農業経営改善のための農業普及員訓練計画活動実績総括表」、2006年8月23日
19. 「ワークショップ実施概要報告」、飯川泉専門家、平成16年8月
20. 「農家調査報告書」、飯川泉専門家、平成16年12月
21. 「農家調査追加調査報告書」、飯川泉専門家、平成17年8月
22. 「TOT/MP3 研修実施概要報告」、飯川泉専門家、平成17年4月20日
23. *Report on Training of Trainers on Participatory Agricultural Extension Method Training*, MAKINO Chiaki, March 2005.
24. 「ゴワ県 MP3 研修参加者による研修開始前質問に対する回答及び研修終了後の評価」、2005年7月25日、11月12日（プロジェクト内部資料）
26. 「スバン県 MP3 研修に対しての研修生による最終評価」、2005年10月（プロジェクト内部資料）
27. 「バンドン県 MP3 (PIAETS)元研修生（普及員）に対するフォローアップセミナー実施概要報告」、飯川泉専門家、平成18年2月10日
28. 「ゴワ県 MP3 研修 事後評価」、2006年6月（プロジェクト内部資料）
29. 「MP3/TOT 研修参加者による MP3 研修評価」、2006年8月（プロジェクト内部資料）
30. MAT Reports by Counterparts, 2006.（プロジェクト内部資料）
31. 各研修センター作成による MP3 研修実施報告書、TOT 実施報告書、3 県の研修事後評価報告書（英訳）（プロジェクト内部資料）
32. *Agricultural Systems Development as a Prime Mover of the National Economy*, Ministry of Agriculture, 1999.
33. *Indonesia Agricultural Development Plan 2001-2004*, Ministry of Agriculture, 2000.
（及川章専門家総合報告書添付資料）
34. *Long-Term Agricultural Development 2005-2025: Vision and Direction*, Ministry of Agriculture, 2005.
35. *Indonesia Agricultural Development Plan 2005-2009*, Ministry of Agriculture, 2005.

付属資料 6:プロジェクト期間中に実施された研修・セミナー

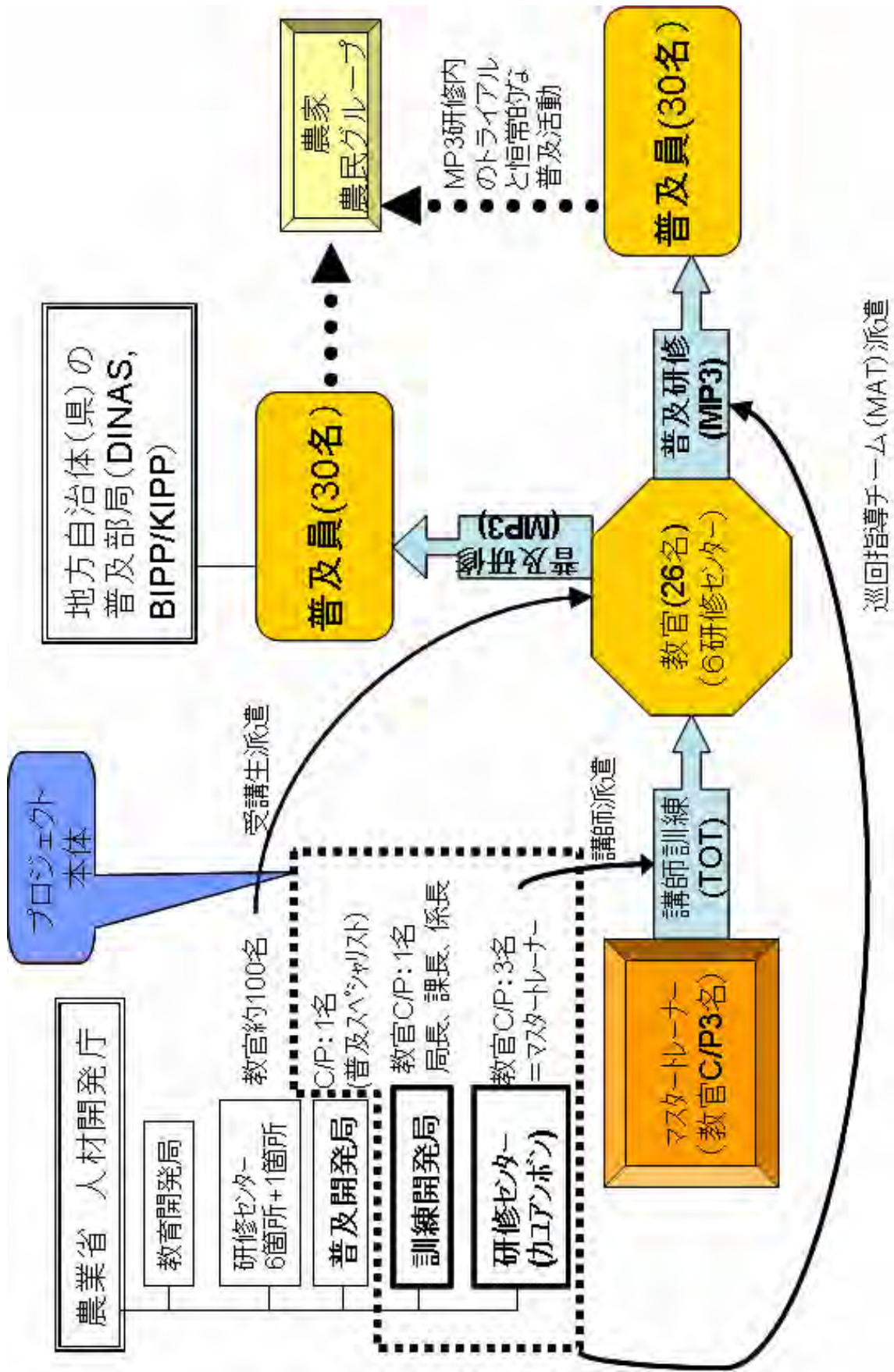
<プロジェクトが直接支援した研修・セミナー>

	研修名	実施期間	参加者	講師	場所	備考
1	試行 TOT/MP3 研修	2004/6/28 ～7/8	カユアンボン BBDA 講師 3 人	C/P:3 人	カユアンボン BBDA	
2	前プロジェクト(PIAETS) のフォローアップセミナー ①	2005/5/18 ～19	PIAETS 研修受講 者(バンドン県普 及員)84 人	C/P:3 人、外部 講師 2 人	カユアンボン BBDA	
3	TOT/MP3 研修	2005/2/20 ～3/11	7 BBDA/BDA 講 師 26 人+AAHRD 本部職員 2 人	C/P:3 人、外部 講師 3 人	カユアンボン BBDA	
4	西ジャワ州スバン県 MP3 普及員研修	2005/5/16 ～8/31	県内普及員 30 人	カユアンボン BBDA 講師	カユアンボン BBDA	MAT による 指導有
5	東ヌサテンガラ州クパン県 MP3 普及員研修	2005/7/14 ～10/13	県内普及員 30 人	ノエルバキ BDA 講師	ノエルバキ BDA	MAT による 指導有
6	南スラウェシ州ゴワ県 MP3 普及員研修	2005/7/23 ～11/12	県内普及員 30 人	バタンカルク BBDA 講師	バタンカルク BBDA	MAT による 指導有
7	前プロジェクト(PIAETS) フォローアップセミナー②	2006/2/1 ～2/3	PIAETS 研修受講 者(バンドン県普 及員)76 人		カユアンボン BBDA	
8	南カリマンタン州 H.S.セラタン県 MP3 普及員研修	2006/5/2 ～8/16	県内普及員 30 人	ビヌアン BDA 講師	ビヌアン BDA	MAT による 指導有
9	西ジャワ州スメダン県 MP3 普及員研修	2006/5/2 ～8/31	県内普及員 30 人	チナガラ BBDA 講師	チナガラ BBDA	MAT による 指導有
10	東ジャワ州パスルアン県 MP3 普及員研修	2006/5/15 ～8/30	県内普及員 30 人	ケティンダン BBDA 講師	ケティンダン BBDA	MAT による 指導有
11	東ジャワ州グレシク県 MP3 普及員研修	2006/5/15 ～8/30	県内普及員 30 人	バトゥ BBDA 講師	バトゥ BBDA	MAT による 指導有

<インドネシア国側の独自予算で実施された研修>

	研修名	実施期間	参加者	講師	場所	備考
1	スマトラ TOT/MP3 研修	2006/3/15 ～3/28	ジャンビ BDA 講師	カユアンボン BBDA 講師	ジャンビ BDA	
2	西ジャワ州 マジャレンカ県 MP3 普及員研修	2006/5/8 ～8/24	県内普及員 30 人	カユアンボン BBDA 講師	カユアンボン BBDA	
3	南スラウェシ州ゴワ県・ タカラール県 MP3 普及員研修		県内普及員 30 人	バタンカルク BBDA 講師	バタンカルク BBDA	
4	東ヌサテンガラ州 エンデ県 MP3 普及員研修	2006/9/19 ～11/23	県内普及員 30 人	ノエルバキ BDA 講師+カユアン ボン BBDA 講 師	エンデ研修セ ンター	

付属資料 7 プロジェクト概念図



付属資料 8 前プロジェクト(PIAETS)の研修を受講したバンドン県普及員によるその後の活動についての調査結果(要点のみ抽出)

(1) 個別農家の優良事例に係る発掘件数

作物別事例類型	一回目研修 受講者(24人)	二回目研修 受講者(25人)	三回目研修 受講者(21人)	発掘事例 の合計
稲作	16	16	9	41
畑作	2	8	3	13
野菜	15	13	11	39
果樹	4	1	3	8
家畜	-	3	-	3
水産養殖	-	2	2	4
その他(複合)	18	-	3	21
合計	55	43	31	129

資料: 飯川専門家「フォローアップセミナー実施概要報告」(平成 18 年 2 月 10 日)

(2) グループ活動に係る優良事例の発掘件数

活動別事例類型	一回目研修 受講者	二回目研修 受講者	三回目研修 受講者	発掘事例 の合計
a) グループ資金(徴収、活用等)	8	1	5	14
b) 生産資材の共同購入等	-	3	1	4
c) 作物栽培に対する共同作業	7	2	6	15
d) 生産物の共同出荷・販売等	6	2	6	9
e) 病虫害防除に関わる共同作業	-	3	1	4
f) 契約栽培・販売等	1	2	-	3
g) 生産資材(有機質肥料)の共同造成	-	2	2	4
h) 生産資材(自然農薬)の共同造成	-	2	2	4
i) 種子関係	1	3	-	4
j) 用水路管理作業	-	-	1	1
k) 小家畜、家禽の飼育等	1	4	2	7
l) 淡水魚の飼育方法	2	3	1	6
m) その他、生産物の加工等	5	9	3	17
合計	31	36	25	92

資料: 飯川専門家「フォローアップセミナー実施概要報告」(平成 18 年 2 月 10 日)

(3) 発掘した優良事例の普及実績

普及サービスの対象	一回目研修 受講者	二回目研修 受講者	三回目研修 受講者	発掘事例 の合計
普及サービスを受けた個別農家数	345	352	314	1,011
普及サービスを受けた農民グループ数 (メンバー農民の数)	62 (930)	83 (502)	47 (529)	197 (1,961)
普及の対象となった農民数合計	1,275	854	843	2,972
推奨事例を採用した個別農家数	1,452	563	124	2,139
推奨事例を採用した農民グループ数	56	55	26	137

資料: 飯川専門家「フォローアップセミナー実施概要報告」(平成 18 年 2 月 10 日)

(4) 他の普及員への手法の普及状況

普及状況	一回目研修 受講者	二回目研修 受講者	三回目研修 受講者	発掘事例 の合計
他の普及員へ手法を紹介した研修 受講者数(全受講者に占める割合)	18 (75%)	22 (88%)	17 (81%)	57 (81%)
紹介された普及員数	66	71	104	241

資料: 飯川専門家「フォローアップセミナー実施概要報告」(平成 18 年 2 月 10 日)

**MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE TERMINAL EVALUATION TEAM
AND
MINISTRY OF AGRICULTURE
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON
THE TECHNICAL COOPERATION PROJECT FOR
TRAINING OF AGRICULTURAL EXTENSION OFFICERS
ON IMPROVEMENT OF FARM MANAGEMENT**

The Japanese Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), headed by Mr. Nobuhiko Hanazato has implemented the Terminal Evaluation of the Technical Cooperation Project for Training of Agricultural Extension Officers on Improvement of Farm Management (hereinafter referred to as "the Project") from September 4 to September 15, 2006.

During the survey period, the Team evaluated the progress of the Project and had a series of discussions with the authorities and stakeholders concerned with the Project.

As a result of the study and discussions, both sides agreed to the matters referred to in the document attached hereto.

Jakarta, 15 September 2006

花里信彦

Mr. Nobuhiko Hanazato, MSc.Eng
Leader
Japanese Terminal Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency
Japan

Suprpto

Dr. Ir. H. Ato Suprpto, MS
Director General
Agency for Agricultural Human Resources
Development
Ministry of Agriculture
The Republic of Indonesia

ATTACHMENT
Report on the Terminal Evaluation Study

Contents

1. Introduction	1
1.1 Objectives of the Evaluation Study	1
1.2 Members of Evaluation Team	1
1.3 Schedule of the Study	1
1.4 Methodology of Evaluation	1
1.5 Data Collection and Analysis Methods	2
2. Outline of the Project	2
2.1 Background	2
2.2 Summary of the Project	3
3. Results of the Study	4
3.1 Accomplishment of Inputs and Activities	4
3.2 Achievement of Outputs	4
3.3 Achievement of Project Purpose	5
3.4 Implementation Process	6
4. Results of Five Criteria Evaluation	7
4.1 Relevance	7
4.2 Effectiveness	8
4.3 Efficiency	9
4.4 Impact	10
4.5 Sustainability	11
5. Conclusion	13
6. Recommendations	13

2

1. Introduction

1.1 Objectives of the Evaluation Study

The Terminal evaluation study on the Project was conducted with the following objectives:

- i) To examine the achievements of the Project (inputs, activities, outputs and outcome) in accordance with the original plan described in the Record of Discussions (R/D), Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operations (PO);
- ii) To evaluate the performance of the Project in terms of the five evaluation criteria, namely, relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability; and
- iii) To make recommendations in regard to the measures to be taken both by Indonesian and Japanese sides towards the end of the Project and to draw lessons that may be applicable to the similar projects in the future.

1.2 Members of Evaluation Team

a) Leader	Mr. Nobuhiko HANAZATO	Deputy Resident Representative, Indonesia Office, JICA
b) Evaluation Planning	Mr. Makoto YAMANE	Assistant Resident Representative, Indonesia Office, JICA
c) Evaluation Analysis	Mr. Atsushi SUZUKI	Consultant, IC Net Co., Ltd.

1.3 Schedule of the Study

The mission team conducted the study including field visits during the period from September 4 to 12, 2006, followed by a series of discussions with the authorities concerned with the Project from September 13 to 15, 2006. The detailed schedule of the study is attached as Annex 1.

1.4 Methodology of Evaluation

This evaluation study was conducted following the PCM methodology defined in the *JICA Guidelines for Project Evaluation (2004)*. The procedures for the study were as follows:

- (i) In the first step of the evaluation, the Evaluation Team examined the degree and prospects of accomplishment of the Project in terms of Inputs, Activities, Results, Purpose of the Project and Overall Goal defined in the PDM;
- (ii) In the next step, the Team analyzed and examined the implementation process, focusing on the aspect of the project management;
- (iii) In the third step, the Team analyzed and evaluated the Project as a whole from the viewpoints of the five criteria including "Relevance", "Effectiveness", "Efficiency", "Impact" and "Sustainability"; and
- (iv) Finally, the Team made conclusion and recommendations for the Project.

1.5 Data Collection and Analysis Methods

The Team collected necessary data and information based on the Evaluation Grid through the review of project related documents, questionnaire survey using the uniform format as shown in Annex 2, interviews with Indonesian personnel as well as Japanese experts engaged in the Project implementation. Collected data and information was analyzed using five evaluation criteria that are briefly explained below.

Five evaluation criteria used for analysis

Criteria	Description
Relevance	A criterion for considering the validity and necessity of a project regarding whether the expected effects of a project (or project purpose and overall goal) meet with the needs of target beneficiaries; whether the contents of a project is consistent with policies of the Indonesian government; whether project strategies and approaches are relevant, etc.
Effectiveness	A criterion for considering whether the implementation of project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target society.
Efficiency	A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results. The main focus is on the relationship between project cost and effects.
Impact	A criterion for considering the effects of the project with an eye on the longer term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended.
Sustainability	A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the assistance.

Source: JICA Guidelines for Project Evaluation (2004)

2. Outline of the Project

2.1 Background

The Indonesian government had shifted its policy focus of the agricultural sector development, under a national development plan called PROPENAS 2000—2004, from the increase of food production to the improvement of farm income¹. Under this policy, strong emphasis was put on “agribusiness and agribusiness system development” by which the farmers and other players concerned with the sector were encouraged to pursue higher profitability through the increased production of high-value products and strengthening of efficient marketing channels. Under this context, the government had come to recognize that it was essential to improve the agricultural extension services by enhancing the capacity of agricultural extension workers so that they could respond to the needs of farmers. The government had, however, not developed an effective training system for extension workers, which led to a request to the Japanese government for a technical cooperation on this development issue.

Against such a background, the *Project for Improvement of Agricultural Extension and Training System* (“PIAETS”) was implemented from September 1999 to March 2002 with an aim of developing a new training system for extension workers in the country. As a result, the PIAETS training approach was

¹ The Indonesian government revised the agricultural policy in 2005 in which three development issues are being focused; namely, i) Food security, ii) Value-added competitiveness, iii) Farmer welfare. Revitalization of agricultural extension has also been particularly emphasized.

developed and piloted in Bandung District of West Java with a great success. The project was terminated on March 31, 2002 but the Indonesian government had requested the Japanese government to support a successor project by which the newly developed PIAETS training system was further improved and extended to other areas of the country.

Based on the request from the Indonesian government, JICA dispatched preparatory study missions and formulated a successor project to the PIAETS. Consequently, the *Project for Training of Agricultural Extension Officers on Improvement of Farm Management* was initiated and has been implemented since January 5, 2004, based on Record of Discussions (R/D) signed on October 29, 2003 between the representatives of the both governments. The Project is scheduled to terminate on January 4 next year. Before the termination, JICA dispatched the Terminal Evaluation Mission to Indonesia with an aim to evaluate the performance of the Project and give advice to the Project in elaborating implementation plans for the remaining and after the project period.

2.2 Summary of the Project

According to the *Project Design Matrix (PDM)* agreed on between the Indonesian and Japanese sides at the beginning of the Project, the summary of the Project was as follows (while there were some minor reviews during the implementation process):

a) Overall Goal:

Farm management in selected districts is improved through the MP3 training.

b) Project Purpose:

Field extension officers in selected districts acquire skills in extension methodology through the improved training program (MP3 method²).

c) Expected Outputs:

- i) MP3 training program is improved in BDA-Kayuambon;
- ii) TOT (training of trainers) program is established in BDA-Kayuambon; and
- iii) The training program is applied to selected districts.

d) Planned Activities:

- i) Improve the MP3;
- ii) Establish and implement the TOT program; and
- iii) Expand MP3 to other districts (selected districts).

The final version of PDM for the Project is attached as Annex 3.

² Renamed from "PIAETS method" after the Project started.

3. Results of the Study

3.1 Accomplishment of Inputs and Activities

In order to achieve the Outputs (Results) and realize the Project Purpose defined in the PDM, inputs were provided by both governments and activities have been undertaken as scheduled in the Plan of Operation (PO) agreed in the R/D at the beginning of the Project. Inputs provided and activities undertaken since the commencement of the Project in January 2004 are summarized in Annex 4, 5 and 6.

3.2 Achievement of Outputs

The Team has confirmed the following results concerning the three Outputs targeted at the beginning of the Project.

Output 1: The MP3 training program is improved at the BDA-Kayuambon.

<u>Indicators:</u>	<u>Summary of Achievements:</u>
1-1. The program is improved based on the survey and analysis, and the manual is updated accordingly.	<ol style="list-style-type: none">1) The MP3 training program has been improved as planned through the follow-up seminars conducted twice for the former PIAETS training participants (extension officers) in Bandung district, and by incorporating results from the Farm Survey conducted in Bandung, recommendations provided by the JICA short-term experts (on marketing and farmers' organization) as well as the MAT supervisory teams.2) Five types of manuals (two for TOT) have been revised and one has been newly produced based on the improved training program.
1-2. Constructed database (of advanced farming cases/practices) is properly managed and utilized by the instructors and extension officers.	<ol style="list-style-type: none">3) Database (DB) of advanced farm management identified by extension officers in Bandung and 4 target districts where the MP3 training was conducted in 2005 and 2006 has been compiled and ready for distribution. Computer-based DB for the advanced cases identified in 2005 also has been produced and ready for distribution.4) Difficulty in the use of the computer-based DB has been observed since some extension offices are having problems concerning the maintenance and use of computers or no availability of computers.

Output 2: MP3 Training of Trainers (TOT) program is established at the BBDA-Kayuambon.

<u>Indicators:</u>	<u>Summary of Achievements:</u>
2-1. Instructors in BDA-Kayuambon are able to implement, monitor and evaluate TOT by themselves, and produce the manual.	<ol style="list-style-type: none">1) Based on the feedback and lessons learned from a trial TOT conducted at the BBDA-Kayuambon in June 2004, TOT was undertaken for 28 instructors of 7 BBDA/BDA's (2 from HQ) in February 2005. The TOT participants in turn have organized MP3 trainings for extension officers in the respective target areas in 2005 and 2006.2) Incorporating lessons obtained from the TOT and MP3 trainings conducted in each target district, the TOT manual has been revised and is

due to complete in September.

- 3) Indonesian C/P staff have conducted a TOT in 2006 for instructors of Jambi BDA with their own resources.

Output 3: The MP3 training program is applied to selected districts.

<u>Indicators:</u>	<u>Summary of Achievements:</u>														
3-1. Number of district MP3 is implemented.	1) Due to active socialization (awareness) activities and campaign carried out by the Project, the number of districts interested in the MP3 has gradually increased as the Project proceeds. Eventually the Project has succeeded in conducting the MP3 trainings for a total number of 210 extension officers in 7 target districts.														
3-2. 80% of the course participants to express understanding and applicability.	<p>2) According to post-training evaluation for the participants (extension officers) in Subang and Gowa districts where the MP3 trainings were undertaken in 2005, all the participants answered to have understood the training contents as shown in the table below.</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">Evaluation Questions</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">No. of Respondents having indicated "Yes"</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">Subang (n=30)</th> <th style="text-align: center;">Gowa (n=30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1) Has your expectation for the training been fulfilled?</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">28</td> </tr> <tr> <td>2) Have you understood the Program of MP3?</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">30</td> </tr> <tr> <td>3) Has the purpose of MP3 training achieved?</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">29</td> </tr> </tbody> </table> <p>Source: <i>Reports on Final Index of MP3 Training (internal data)</i></p> <p>3) All the MP3 training participants (extension officers) in Pasuruan, Gresik (East Java) and Subang district (West Java) whom the Team interviewed during the current study reported that they had understood the contents of the MP3 training.</p>	Evaluation Questions	No. of Respondents having indicated "Yes"		Subang (n=30)	Gowa (n=30)	1) Has your expectation for the training been fulfilled?	29	28	2) Have you understood the Program of MP3?	30	30	3) Has the purpose of MP3 training achieved?	29	29
Evaluation Questions	No. of Respondents having indicated "Yes"														
	Subang (n=30)	Gowa (n=30)													
1) Has your expectation for the training been fulfilled?	29	28													
2) Have you understood the Program of MP3?	30	30													
3) Has the purpose of MP3 training achieved?	29	29													

3.3 Achievement of Project Purpose

In regard to the Project Purpose, the achievements have been summarized as follows.

Project Purpose: Field extension officers in selected districts acquire skills in extension methodology through the improved training program (MP3 method).

<u>Indicators:</u>	<u>Summary of Achievements:</u>
1. 80% of the training participants actually disseminate advanced cases in their activities.	1) According to the results of the post-evaluation survey conducted in Subang and Gowa districts, generally high rate of the participants (extension officers) answered that they had utilized outputs of the MP3 training (information about the advanced cases on farmers/farmer groups) in their extension activities as shown in the table below:

Evaluation Questions	No. of Respondents having indicated "Yes"	
	Subang (n=30)	Gowa (n=30)
1) Have inserted the excavated information to extension program at sub-district level	8	23
2) Have inserted the excavated information to working plan	22	28
3) Have applied results of MP3 training in extension activities	28	-
4) Result of MP3 training beneficial to farmers	30	-
5) Have utilized the extension materials produced in the MP3 trainings	25	29
6) Have utilized other methods to disseminate information on advanced cases	27	27
7) Have excavated new information on advanced cases after the training	26	10
8) Have utilized information from other sources (e.g. magazines, newspapers)	24	24
9) To have explained about excavated cases/ extension materials to other extension officers	24	15
10) To have been enquired by other extension officers overt the excavated cases	21	9
11) Have conducted monitoring of the target groups identified Session 3 Field Work	27	26

Source: *Post Evaluation Reports of MP3 Training (internal data)*

2) All the MP3 training participants (extension officers) in Pasuruan, Gresik (East Java) and Subang district (West Java) whom the Team interviewed during the current study reported that they had utilized the information identified through the training to their extension activities.

2. Farmers' acceptance to extension methodology.

3) The results of the follow-up survey for the PIAETS training participants (conducted in Bandung district by the preceding project) also confirmed that they continued to identify and disseminate the advanced cases of farm management in their extension activities (72 extension officers was reported to have identified 129 advanced cases since they attended the training.)

4) The same follow-up survey reported that 2,139 individual farmers and 137 farmer groups had adopted advanced management practices recommended by the Bandung extension officers who had participated in the PIAETS training, which could be an evidence for the high farmers' acceptance to the MP3 methodology, though it was not a direct consequence of the current project.

3.4 Implementation Process

The Bureau of Agricultural Training Development (BATD) and the BBDA-Kayuambon under the Agency for Agricultural Human Resources Development (AAHRD) executed the Project with technical assistance of Japanese experts. It was reported that a few problems had occurred during the implementation process including miscommunication among experts and Indonesian C/Ps, insufficient local expenses prepared for

the project activities, especially in the first year of the Project. There are two project offices set up in Jakarta and Lembang which were pointed out as one of the reasons for difficulties in effective internal communications. Efforts were made, however, to overcome these problems by both Indonesian and Japanese side with having more frequent meetings attended by experts and C/Ps. Consequently, the situation had gradually improved from the second year and most activities have been undertaken smoothly towards the termination of the Project.

Besides that, it was pointed out that the following factors positively contributed to the smooth progress of the Project:

- i) C/P assignment of instructors at Kayuambon who had worked for the PLAETS project and were familiar with the MP3 training system;
- ii) High competency of BBDA/BDAs' instructors in absorbing the essence of the MP3 training; and
- iii) Assignment of Japanese experts who have high communication ability in local language with C/Ps.

The results of the evaluation questionnaire concerning the implementation process are summarized in the Annex 7 (1).

4. Results of Five Criteria Evaluation

4.1 Relevance

The Team concludes that the relevance of the Project has been high based on the following analysis.

(1) High relevance to the policy context and local needs

In Indonesia, agricultural extension services were largely provided in the past in a "top-down" manner with an aim of increasing food production, notably rice. Policy focus was, however, shifted to high value agriculture. At the same time, the decentralization reforms initiated in 1999, and most agricultural extension functions including staff recruitment, training and funding have been devolved to district level. In this context, it was recognized essential to improve the capacity of agricultural extension agents at district and village levels so that they could respond to the needs of farming community as well as other stakeholders concerned with agriculture. Introduction of a participatory extension approach/methodology was regarded as an effective way to improve the national agricultural extension system under a new policy context. The aim of the current Project was to enhance the knowledge and skills of field-level extension officers necessary for the demand-driven extension services that was in turn expected to contribute to the improvement of farm management. Therefore, the implementation of the Project was in accordance with the development policy of the Indonesian government and was highly relevant to the local needs.

(2) Consistency with Japanese assistant policy

On the other hand, Japanese government has defined social development and poverty alleviation as one of the important development issues in the latest assistant policy for Indonesia. In line with this, a program for establishment of stable food supply system and increase of farm/fishery income has been identified. The Project was designed as one of inputs under this program; hence, it is considered that the consistency with the assistance policy of the Japanese government for Indonesia was high.

(3) High scores in the evaluation questionnaire

The results of the evaluation questionnaire concerning the Relevance are summarized in the Annex 7 (2), which indicated moderate to high mean scores on all the evaluation items.

4.2 Effectiveness

For the following reasons, the Team concludes that the overall Effectiveness of the Project has been high.

(1) High achievement level of the expected outputs (refer to section 3.2)

Output 1: Except the maintenance and use of computer-based DB, all the indicators for the Output 1 are likely to be achieved within the project period. Hence, the achievement level of the Output 1 could be assessed more than 90%.

Output 2: Since the Indonesian C/P staff have been able to conduct, monitor and evaluate TOT for BBDA/BDA's instructors by themselves, the expected Output 2 can be regarded as having been achieved completely as a result of project activities.

Output 3: The number of districts where the MP3 training was conducted for extension officers has reached the original target that was 7 districts at the maximum. It is difficult, however, at this stage to assess the level of understanding of the participants concerning the MP3 methodology since the results of evaluation questionnaire on the training and post-training activities have been collected only from 2 districts where the MP3 training was conducted in 2005. Furthermore, out of 7 districts targeted, 4 districts have just finished the training in August this year; hence, it is too early to evaluate the achievement level in these districts. However, as far as assessed based on available information obtained by the Evaluation Team in the field study, the level of achievement of the Output 3 will be possibly high.

(2) High achievement level of the Project Purpose (refer to section 3.3)

Since the MP3 has been applied in 7 districts, the target set at the beginning of the Project has been achieved. Out of 7 districts, the post-evaluation information has been collected only from 2 districts. Consequently, it is still difficult for the Evaluation Team to conclude the level of achievement regarding the Project Purpose; however, it appears to be very high as far as assessed based on available information including post-training evaluation information from Subang and Gowa districts, interviews conducted by

the Team. The contribution of outputs realized as a result of the Project was also observed high, which means theoretical logic between Outputs level and Project Purpose level was generally good.

(3) High scores in the evaluation questionnaire

The results of the evaluation questionnaire concerning the Effectiveness are summarized in the table Annex 7 (3).

4.3 Efficiency

Based on the following analysis, the Team concludes the Efficiency of the Project has been moderate to high.

(1) Provision of inputs from the Japanese side

According to the results of the evaluation questionnaire (refer to Annex 7 (4)) and interviews with project personnel, it appears that inputs have been appropriately provided by the Japanese side and utilized efficiently to carry out the project activities. Although the number of long-term experts was reduced from 3 to 2 in the third year, planned activities have been properly conducted that have brought about the successful results.

(2) Provision of inputs from the Indonesian side

The Team has learned that disbursement of operational funds for the Project from the Indonesian side was sometimes delayed in the first year, which had affected the progress of the Project to some extent. It was, however, inevitable since there was a gap of timing between the budgetary request and the R/D signing³. And also, there was a change in the government budgetary system in 2004. In addition, it was reported that the BATD had difficulty in convincing the Planning Division of AAHRD to secure budget for the MAT supervisory work since it was new concept for conducting trainings.

After the Project had commenced, the C/Ps made efforts to secure budget and the amount released has remarkably increased from the second year (see Annex 5), which contributed to efficient implementation of the project activities. The preparatory work between Indonesia and Japanese side to detail the activities and budget plan before the commencement of the Project would have improved the first year operation.

(3) Cost effectiveness

It is difficult to accurately assess the cost-effectiveness of the Project in monetary terms since the Team could not identify proper criteria. However, looking at the fact that the Project has managed to cover 7 districts within a period of three years with relatively small inputs, it is considered that the cost-effectiveness of the Project has been reasonably high.

³ The government budget for the following year is usually planned in August but the R/D for the Project was signed in October, 2003.

The table below is a summary of inputs provision for the preceding project (PIAETS) and the current project. Since the purpose of the project was different, it is not possible to simply compare the two projects, but it is apparent that the level of inputs for the current project has been reasonably low compared with that of the PIAETS.

Summary of Inputs Provision for PIAETS and the Current Project

Item	Unit	PIAETS	Current Project
1) Project term	Months	31	36
2) No. of long-term Experts	M/M	97.2	96.0
3) No. of short-term Experts	M/M	11.1	2.4
4) No. of Indonesian C/Ps	Persons	7	10
5) No. of Indonesian C/Ps trained in Japan	Persons	5	7
6) Value of equipment provided (from Japan)	1,000JP	23,500	3,650
7) Amount of operational funds (from Japan)	1,000IDR	1,175,524	2,111,858
8) Amount of operational funds (from Indonesia)	1,000IDR	6,700	2,477,275

Source: Project internal data

4.4 Impact

The Team concludes the Impact of the Project may be moderate, based on the following analysis.

It is apparent that the Project has brought or will bring about a number of expected and unexpected impacts on the national training system for extension agents as well as extension services delivered by the public extension system. They included:

- i) All the National Training Centers (BBDA/BDAs) have successfully incorporated participatory bottom-up extension approach, which was new to them, into the training system for extension agents;
- ii) The number of districts that have been socialized with importance of bottom-up extension approach has increased as a result of active socialization of MP3 by the Project;
- iii) Extension officers have been able to improve their extension activities by using the methodology trained through the MP3.

According to the interviews made with instructors the Team met during the field visits, it was confirmed that the acceptance of the methodology by each center has been quite high and its internalization as one of ordinary training courses has been in progress. The results of the evaluation questionnaire summarized in Annex 7 (4) also support the assessment result that overall impact of the Project may be generally high.

On the other hand, it was difficult in this study to assess as to what to extent the Project has brought or will bring about impact on the Overall Goal, which was defined as "improving farm management in the target districts". This is due to the following reasons:

- i) There is a logical gap between the Overall Goal and the Project Purpose in the PDM;

- ii) Improvement of training system for extension officers does not necessarily guarantee the overall improvement of extension services that can lead to the improved farm management in a particular area. For instance, almost all the extension officers the Team met in the field reported that one of the major hindrance to the extension activities has been general lack of operational funds or necessary equipment including transport means;
- iii) The Project has contributed to the capacity enhancement of extension officers, and to the dissemination of useful information and technology for farmers to be applied. However, there are still a number of external factors (assumptions) that must be satisfied before realizing the Overall Goal although all the factors had not necessarily been addressed in the PDM. They include difficulties in accessing credit system, high costs of agricultural inputs (fertilizers, chemicals, and seeds) for farmers and, a lack of office equipment and transport means for extension officers. In order to contribute more and reach to the Overall Goal, not only MP3 trainings but also various supports to eliminate those constraints must be provided; and
- iv) Any comprehensive study to objectively measure the level of impact on the Overall Goal has not been conducted since the commencement of the Project⁴;

According to the first preparatory study report drafted in May 2003, some of the above-mentioned issues, in fact, had been recognized. It was recommended for the consecutive preparatory studies to thoroughly examine the countermeasures for them, but it appears that any effective examination had not been undertaken before the commencement of the Project as well as during the implementation period. As a result, the gap between Overall Goal and Project Purpose has remained. It is considered that logical relationship between these two levels should have been re-examined at some stage⁵.

4.5 Sustainability

The Team concludes that overall Sustainability of the Project outcome would be high from the following observations.

(1) Technical and organizational sustainability

As discussed above, the Project is likely to achieve all the outputs and the Project Purpose within the project period. Through the Project, instructors at 7 national training centers under the AAHRD will be able to acquire adequate knowledge and skills in conducting MP3 trainings for extension officers. According to anecdotal information obtained by the Evaluation Team, the technical as well as organizational sustainability of the MP3 methodology appears very high since most instructors have already been able to conduct the MP3 training for extension officers without much assistance from master

⁴ It was reported that there has been general understanding among the project members that impact of the Project on the beneficiaries (farmers) would be conducted in several years after the Project terminates.

⁵ Because of this logical gap, there has been confusion among project members over the concept of the Project, that is, whether the Project tries to institutionalize the MP3 training system, or to improve farm management through the improvement of extension activities using the MP3.

instructors of BBDA-Kayuambon or Japanese experts. 3 trainings have been organized in 2006 using only Indonesian resources.

(2) Financial sustainability

It is observed that the sustainability of MP3 from next year will largely depend on the fund availability for the training. The expense for the MP3 training organized in 2005 and 2006 was in fact shared by BBDA/BDAs (national budget), local governments (districts) and JICA. After the Project terminates, the BBDA/BDAs and districts need to secure the budget for the training expense. In regard to this issue, the Team has learned that AAHRD had already instructed each BBDA/BDA to secure the budget to run at least one MP3 training in the year 2007. It is reported that all the BBDA/BDAs are willing to continue it. Instructors of Batu and Ketindan BBDA in East Java whom the Team met during the field study reported that there are several districts that want to train their extension officers on the MP3 using their own budget; therefore, if the national fund is available, they will be able to organize trainings for more than one district in the next year. It can be concluded that securing the budget will lead to the further expansion of the MP3 target areas in the future.

(3) Measures to ensure the sustainability

Apart from observations reported above, the Head of BATD who has been the Project Manager assured that the BATD would take the following measures to sustain the Project outcome;

- i) To encourage each BBDA/BDA to continue the MP3 using the national budget (already instructed);
- ii) To socialize the methodology to other institutions including DGs (directorates and agencies in the Ministry) and provincial training centers;
- iii) To incorporate the advanced farming technologies identified through the MP3 training into the P4S training project that will be implemented using the 2KR Fund for 8 districts in 8 provinces in the next year; and
- iv) To incorporate the MP3 methodology into a World Bank supported new project titled as *Farmer Empowerment through Agricultural Technology and Information (FEATI)* that is scheduled to start from next year targeting 64 districts in 18 provinces, which main implementing agency is AAHRD.

As shown in Annex 7 (6), both of Indonesian staff and Japanese Experts rated high scores for the Sustainability-related statements in the evaluation questionnaire.

5. Conclusion

Based on findings and analysis made in the study, the Evaluation Team concludes the project activities have been successfully carried out under the close collaboration between Japanese experts and Indonesian C/Ps. All the Outputs and Project Purpose are expected to be achieved by the end of the Project on 4th January, 2007. In this regard, the Project could be regarded as having been "successful". Contributing factors to the smooth implementation of the Project included: high commitment of both of Japanese experts and Indonesian C/Ps towards the realization of the project purpose, good relationship between them, and high competency of C/Ps and instructors of training centers.

However, a theoretical gap between the Overall Goal and Project Purpose in the project design was recognized. In order to make the Indonesian agricultural extension services to be beneficial for the farming community and achieve the Overall Goal, a lot of efforts are still required though it is considered beyond the scope of the current project. It is, therefore, expected that efforts be continued to improve the farm management based on valuable experience and lessons learned from the Project.

6. Recommendations

The Team recommends the following measures to be taken before the termination of the Project:

- (1) **Follow-up workshop.** The Project is planning to organize a follow-up workshop in October for the BBDA/BDAs' instructors who have conducted MP3 training in the respective areas. It will be a very important opportunity for them to share experience each other and review the way of conducting the MP3 training. The Team has learned that a number of instructors who did not attend the TOT actually has been playing important role in conducting the training for extension officers. It is recommended that such instructors also be involved in the follow-up workshop.
- (2) **Socialization.** To further expand the MP3 target areas and increase the number of extension officers trained, it is crucial for local governments (districts) to be aware of the benefits of the methodology since the training expense is shared between the national and local governments. Therefore, it is important for the BATD as well as BBDA/BDAs to continue the socialization activities targeting district authorities. It will be worthy for the Project to consider producing and distributing printed materials (e.g. leaflets, pamphlets) about the MP3 including voices of extension officers and farmers who have been trained.
- (3) **Mid-term action plan.** Through the study, the Team has confirmed the willingness of continuing the MP3 training both at the BATD and BBDA/BDA levels after the Project terminates. In fact, it is reported that the BATD has incorporated budget for organizing training at BBDA/BDAs in the 2007 budget plan, and each BBDA/BDA has already started selection of target districts. To ensure the sustainability of the expansion beyond year 2007, the Team recommends that the Project formulate a mid-term action plan to cover the next few years, in which actions and schedule to undertake

socialization, training and evaluation is described. Collaboration with other related projects such as 2KR-funded P4S and World Bank supported FEATI also needs to be considered in the plan.

In regard to the measures that need to be taken after the termination of the Project in January 2007, the Team recommends the followings:

- (1) **Securing budget.** Based on the mid-term action plan formulated before the end of the Project, the AAHRD/BATD needs to ensure the fund availability for BBDA/BDAs to conduct the MP3 training for target districts in the next few years.
- (2) **Post-training evaluation.** By the time the current evaluation study was conducted, the results of post-training evaluation had been collected only from 2 districts (Subang and Gowa). In order to confirm the results of the Project, the Project should ensure the collection and analysis of the post-training evaluation information from all the BBDA/BDAs.
- (3) **Impact assessment.** During the project period, the Project was not able to conduct a farm survey to measure the impact of the MP3 training on the improvement of farm management in the target areas, which has been set as the Overall Goal. It is recommended that the AAHRD/BATD in collaboration with BBDA/BDAs and local governments conduct an impact survey within a few years. The survey should include such information as to how many advanced cases extension officers have disseminated to farmers, how many cases were actually adopted by farmers after the termination of the Project and how successful they were in terms of the improvement of farm management.
- (4) **Use of database.** Database of the advanced farm management technologies produced by the Project must be a valuable source of information for extension activities. It could be a way to extend the benefits to other areas beyond the districts directly targeted by the Project. For this reason, it is expected for the AAHRD/BATD to continue the update using a newly created Database unit and utilize the database even after the Project terminates.
- (5) **Use of equipment.** To sustain the project inputs for longer period, it is expected that equipment provided under the Project be used mainly for the MP3-related activities.
- (6) **Collaboration within the AAHRD.** The Team believes that effective collaboration among bureaus and departments within the AAHRD will be essential to further improve the method and offer more effective and efficient extension services, and eventually realize the higher-level of development goals. To start with, a networking among BBDA/BDAs and Database Unit in the agency needs to be established and managed.
- (7) **Incorporation of the Project outcome into other projects.** Collaboration with other donor-supported projects is also important. It is recommended that the AAHRD/BATD take a leading role to incorporate the Project outcome into other projects such as 2KR-funded P4S training project,

World Bank supported FEATI, and IFAD supported READ (Rural Empowerment Agricultural Development).

- (8) **Exchange of experience with other countries.** Sharing the experience of the Project at the various occasions such as the meetings of ASEAN Sectoral Working Group on Agricultural Training and Extension (AWGATE) is encouraged. Meanwhile, there has been a request from the Indonesian side concerning the provision of opportunities to exchange experience and information of similar projects (participatory agricultural extension) implemented in other countries. Since this would be useful not only for Indonesia but also for other countries, it may be worthy for JICA to consider to provide such opportunities.

The JICA Indonesia Office will monitor the above-mentioned recommended issues for the appropriate actions from time to time after the Project terminates.

LIST OF ANNEX

- Annex 1.** Schedule of the Evaluation Study
- Annex 2.** Evaluation Questionnaire Sheet
- Annex 3.** Final Version of Project Design Matrix (PDM)
- Annex 4.** Summary of Inputs from Japanese Side
- Annex 5.** Summary of Inputs from Indonesian Side
- Annex 6.** Summary of Activities
- Annex 7.** Results of Evaluation Questionnaire

Annex 1: Schedule of the Evaluation Mission

No.	Day	Time	Activity	Remarks
1	Sept. 4 (Mon)	10:00-11:10 11:25-12:30 14:00-14:45 15:15-17:10	Internal meeting (JICA) Interview with experts Courtesy call to Embassy of Japan Interview with experts	
2	Sept. 5 (Tue)	09:20-12:10 13:25-13:50 13:55-15:10	Interview with Director & Counterparts of BATD Courtesy call to KLN, MOA Interview with C/Ps of BATD	Hanazato, Yamane, Suzuki, Yagi, Iikawa
3	Sept. 6 (Wed)	10:30-12:00 13:45-15:40 15:40-17:45 19:15-21:00	Travel from Jakarta to Malang (East Java) Interview with Instructors at Batu BBDA Travel to Ketindan BBDA Interview with Instructors at Ketindan BBDA	Ella, Dewi, Yagi, Suzuki
4	Sept. 7 (Thu)	08:10-08:55 08:55-09:25 09:35-16:25 16:30-19:30	Travel to Pasuruan District Courtesy call to Gonda Wetan Sub-district office Interview with extension officers & farmers' groups in Gonda Weda, Pusupo & To Sari Sub-district Travel to Surabaya	Ella, Dewi, Yagi, Suzuki
5	Sept. 8 (Fri)	07:10-09:00 09:00-13:30 14:00-15:30	Travel from Surabaya to Gresik District Interview with extension officers & a farmers' group in Menganti Sub-district Travel back to Surabaya	Ella, Dewi, Yagi, Suzuki
6	Sept. 9 (Sat)	10:30-12:00 PM	Travel from back to Jakarta Report preparation	Yagi, Suzuki
7	Sept. 10 (Sun)	Whole day	Report preparation	
8	Sept. 11 (Mon)	07:45-10:15 10:25-14:55 16:00	Travel from Jakarta to Bandung District (West Java) Interview with instructors at Kayuambon BBDA Arrive at a Hotel in Lembang, Report preparation	Yamane, Yagi, Suzuki
9	Sept. 12 (Tue)	08:00-08:30 10:10-16:40 16:40-19:30	Interview with Director at Kayuambon BBDA Interview with extension officers & farmers' groups in Binong Sub-district Travel back to Jakarta	Yamane, Suzuki, Yagi, Iikawa
10	Sept. 13 (Wed)	10:00-12:30 PM	Internal meeting Report preparation	Hanazato, Yamane, Suzuki, Yagi, Iikawa
11	Sept. 14 (Thu)	10:00-12:00 PM	Discussion with BATD Director & Counterparts about the final report Report preparation	Yamane, Suzuki, Yagi, Iikawa
12	Sept. 15 (Fri)	10:00-11:00 13:00-14:00	Signing on M/M at BATD Report to the EOA	Hanazato, Yamane, Suzuki, Yagi

BATD: Bureau of Agricultural Training Development; KLN: Bureau of International Cooperation; MOA: Ministry of Agriculture

Annex 2: Evaluation Questionnaire Sheet (for Indonesian Officers and Japanese Experts)

This is a questionnaire for the final evaluation on the *Project for Training of Agricultural Extension Officers on Improvement of Farm Management (MP3)*. Distributed copies of this questionnaire are to be collected and analyzed by the JICA evaluation team whose members may then have interviews in early September with selected counterpart personnel for more information.

Please read each statement below and choose an appropriate score according to what extent you agree with the statement. Scores indicate five levels from 0 for "Strongly disagree" to 4 for "Strongly agree". For statements that you are not sure about, please tick off the "Don't know" box. And please provide reasons for your scoring or any comments relevant to the respective evaluation items in the right column as much as possible.

After filling out the questionnaire, please submit it to Dr. YAGI, Chief Advisor to the Project, at your earliest convenience. It would be greatly appreciated if you could provide answers in English in the questionnaire and submit it as an electric file.

Thank you very much for your cooperation.
JICA Evaluation Team

Name of Respondent: _____

Date: _____

Title/Affiliation: _____

Evaluation Items	Statements	Level of Agreement					Reasons for Your Scoring and Comments		
		0	1	2	3	4			
(1) Project Implementation Process									
Progress of inputs and Activities	1	The Project inputs/activities have been carried out according to the original plan agreed on between the Indonesian and Japanese sides.	0	1	2	3	4	Don't know	
	Project Management System	2	The Project activities have been monitored appropriately both by the Indonesian and Japanese sides throughout the Project term.	0	1	2	3	4	Don't know
		3	The review of Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO) was appropriately undertaken.	0	1	2	3	4	Don't know
		4	Japanese Experts and Indonesian Counterpart staff have adequately communicated with one another to share information regarding the project management and activities.	0	1	2	3	4	Don't know
		5	Regular meetings between the Indonesian and Japanese sides, or Joint Coordination Committees (JCCs) sufficiently contributed to solving problems that occurred in the implementation process.	0	1	2	3	4	Don't know
		6	The Project team and JICA Indonesia Office have sufficiently communicated with each other to share information regarding project management and activities.	0	1	2	3	4	Don't know
Ownership of the Project	7	The Indonesian staff (MOVA/AAHRD supervisors and C/Ps) have adequately participated in project management and activities.	0	1	2	3	4	Don't know	
	8	The Indonesian Government has allocated a sufficient budget for the Project activities.	0	1	2	3	4	Don't know	
Collaboration with Other Projects	9	The Project has adequately collaborated with other projects implemented either by JICA or other donors.	0	1	2	3	4	Don't know	
Factors Affecting the Implementation Process	10	Restructuring of MOVA/AAHRD or reshuffling of the supervisors and C/Ps have affected the implementation of the Project.	0	1	2	3	4	Don't know	
	11	There are unpredictable constraints which have adversely affected the Project implementation process.	0	1	2	3	4	Don't know	
(2) Relevance									
Relevance to Local Needs	12	The technical cooperation/advice provided under the Project has been relevant to the needs of MOA, AAHRD and BBDA/BDAAs.	0	1	2	3	4	Don't know	
	13	The technical cooperation/advice provided under the Project has been relevant to the needs of the target group (BBDA/BDAAs' instructors and extension officers).	0	1	2	3	4	Don't know	
Relevance to Policies	14	What the Project tries to achieve has been in line with and had higher priority in the national development plan or agricultural policy of the Indonesian Government.	0	1	2	3	4	Don't know	
	15	The Project has been in accordance with the country assistant policy of Japanese Government and JICA for Indonesia.	0	1	2	3	4	Don't know	
Appropriateness of Project Approach	16	The Project approach (improve the farm management through the training of extension officers using the improved MP3 method) has been appropriate in terms of the development strategy of MOVA/AAHRD.	0	1	2	3	4	Don't know	
	17	The main Project main site (Kayuambon BBDA) and target districts were appropriately selected in accordance with the development strategy of MOVA/AAHRD.	0	1	2	3	4	Don't know	
	18	The target group (BDA instructors and extension officers) was appropriately selected in accordance with the development strategy of MOVA/AAHRD.	0	1	2	3	4	Don't know	
	19	The Project has been or will be able to benefit other groups of people besides the originally target group.	0	1	2	3	4	Don't know	
20	Japan had comparative advantage in technology (know-how) and experience for supporting the Project.	0	1	2	3	4	Don't know		
(3) Effectiveness									
Achievement of Project Purpose	21	The Project Purpose ("Field extension officers in selected districts acquire skills in extension methodology through the improved training program (MP3 method)") is likely to be achieved by the end of the Project. (Indicators) (1) 80% of the training participants apply advanced cases in their activities; and (2) Farmers accept extension methodology.	0	1	2	3	4	Don't know	
Achievement of Project Outputs	22	The first Project Output ("MP3 training program is improved in BDA-Kayuambon") is likely to be achieved by the end of the Project. (Indicators) (1) The program is improved based on the survey and analysis, and the manual is updated accordingly; and (2) Constructed database is properly managed and utilized by instructors and extension officers.	0	1	2	3	4	Don't know	
	23	The second Project Output ("TOT (training of trainers) program is established in BDA-Kayuambon") is likely to be achieved by the end of the Project. (Indicator) Instructors of the center will be able to implement, monitor and evaluate the TOT program by themselves.	0	1	2	3	4	Don't know	
	24	The third Project Output ("The training program is applied to selected districts") is likely to be achieved by the end of the Project. (Indicators) (1) Number of districts where MP3 is implemented; and (2) 80% of the course participants express understanding and applicability of training contents.	0	1	2	3	4	Don't know	
	25	The three Project Outputs have sufficiently contributed to the realization of the Project Purpose ("Field extension officers in selected districts acquire skills in extension methodology through the improved training program (MP3)").	0	1	2	3	4	Don't know	

Evaluation Items	Statements	Level of Agreement					Reasons for Your Scoring and Comments
Effects of External Factors	26 Factors other than the achievements of the Project have contributed to the achievement of the Project Purpose.	0	1	2	3	4	Don't know
	27 The assumption from Outputs level to Project Purpose level ("Extension system does not change drastically") has affected the realization of the Project Purpose.	0	1	2	3	4	Don't know
	28 Other external factors have negatively affected the realization of the Project Purpose.	0	1	2	3	4	Don't know
(4) Efficiency							
Contribution of Activities	29 Adequate activities have been carried out on time to realize the Project Outputs according to the original plan.	0	1	2	3	4	Don't know
Appropriateness of Inputs by Japanese Side	30 The dispatch of short- and long-term Japanese experts was appropriate in terms of number, expertise, length and timing of their assignment.	0	1	2	3	4	Don't know
	31 The provision of equipment by the Japanese side was appropriate in terms of types, quantity and timing of procurement.	0	1	2	3	4	Don't know
	32 The training of C/Ps in Japan was appropriately undertaken in terms of number of trainees, contents, length and timing.	0	1	2	3	4	Don't know
	33 Knowledge and skills that the C/Ps obtained through the training in Japan have been relevant to the Project activities.	0	1	2	3	4	Don't know
	34 The local cost support by the Japanese side has been appropriate in terms of amount, use, and timing of disbursement.	0	1	2	3	4	Don't know
Appropriateness of Inputs by Indonesian Side	35 The assignment of C/P staff has been appropriate in terms of number, position and competency.	0	1	2	3	4	Don't know
	36 The facilities and equipment provided by the Indonesian side have been appropriate in terms of size, quality and convenience for use.	0	1	2	3	4	Don't know
	37 The amount of budget for the Project disbursed by the Indonesian government has been appropriate in undertaking the project activities.	0	1	2	3	4	Don't know
Cost Effectiveness	38 The total amount of the budget spent for the Project (both from the Indonesian and Japanese sides) has been appropriate in terms of type of outputs and number of beneficiaries, compared with other similar projects.	0	1	2	3	4	Don't know
	39 The length of the Project (3 years) was appropriate in terms of outputs and number of beneficiaries, compared with other similar projects.	0	1	2	3	4	Don't know
Effects of Preconditions and External Factors	40 The first precondition identified at the beginning of the Project ("Budget for conducting MP3 trainings at BDA/BDA is allocated by Indonesian government") has affected project implementation.	0	1	2	3	4	Don't know
	41 The second precondition identified at the beginning of the Project ("Facilities of selected BDAs are adequate") has affected project implementation.	0	1	2	3	4	Don't know
	42 The third precondition identified at the beginning of the Project ("Coordination among BDA-Kayambon, other BDAs and Districts is adequate") has affected project implementation.	0	1	2	3	4	Don't know
	44 External factors have negatively affected the efficiency of the Project.	0	1	2	3	4	Don't know
(5) Impact							
Probability of Overall Goal to Be Achieved	45 The Overall Goal ("Farm management in selected districts is improved through MP3 training") is likely to be realized as a result of the Project.	0	1	2	3	4	Don't know
Effects of External Factors	46 The Overall Goal and the Project Purpose were compatible and set at appropriate levels (the gap was not very big).	0	1	2	3	4	Don't know
	47 The assumption from the Project Purpose level to the Overall Goal level ("MP3 is continuously improved") is likely to be satisfied.	0	1	2	3	4	Don't know
	48 The assumption from the Project Purpose level to the Overall Goal level ("Extension activities by local government are performed at present level") is likely to be satisfied.	0	1	2	3	4	Don't know
	49 External factors will affect the realization of the Overall Goal.	0	1	2	3	4	Don't know
Multiplied Effects	50 Apart from the Overall Goal, the Project achieved unexpected impacts realized that have positively influenced the relevant government policy, system, socio-economic conditions and technological development.	0	1	2	3	4	Don't know
	51 The Project caused unexpected impacts which have negatively affected the relevant government policy, system, socio-economic conditions and technological development.	0	1	2	3	4	Don't know
(6) Sustainability							
Institutional Aspect	52 The Indonesian government is likely to have adequate institutional arrangement (policy and system) by which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation terminates.	0	1	2	3	4	Don't know
Financial Aspect	53 The Indonesian government is likely to secure an adequate budget with which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation terminates.	0	1	2	3	4	Don't know
Organizational Aspect	54 MOA and AAHRD are likely to maintain and develop the organizational structure including appropriate staff assignment with which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation terminates.	0	1	2	3	4	Don't know
Technical Aspect	55 The target group (BDA instructors and extension officers) has accepted the improved MP3 methodology as an extension approach and is likely to continue to use it.	0	1	2	3	4	Don't know
	56 Each BDA is likely to maintain and further develop the MP3 methodology after the Project terminates.	0	1	2	3	4	Don't know
	57 The improved MP3 methodology is likely to be disseminated to other BDAs after the Project terminates.	0	1	2	3	4	Don't know
Overall Sustainability	58 The Project achievements have a high level of overall sustainability.	0	1	2	3	4	Don't know

Any other comments regarding the Project:

Annex 3: Project Design Matrix (Final Version)

Project Name: The Project for Training of Agricultural Extension Officers on Improvement of Farm Management

Project Period: 3 years (January 2004 – December 2006)

Target Area: Seven (7) districts under seven (7) BDAs, at maximum

Target Group: Instructors from BBDA/BDA, Senior extension officers and Field extension officers from selected districts

Prepared on October 20, 2003
Revised on August 18, 2004

Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal Farm management in selected districts(*) is improved through MP3 training	Improvement in farm management	Sample survey of farmers		
Project Purpose Field extension officers in selected districts (*) acquire skills in extension methodology through the improved training program (MP3 method)	<ol style="list-style-type: none"> 80% of the training participants actually disseminate advanced cases in their activities Farmers' acceptance to extension methodology 	<ol style="list-style-type: none"> Post evaluation questionnaire for participants and Project reports Sample survey of farmers 	<ul style="list-style-type: none"> * MP3 is continuously improved * Extension activities by local government are performed at present level 	
Outputs 1 MP3 training program is improved in BDA-Kayuambon	<ol style="list-style-type: none"> Program is improved based on the survey and analysis, and the manual is updated accordingly Constructed database is properly managed and utilized by instructors and extension officers Instructors in BDA-Kayuambon are able to implement, monitor and evaluate TOT by themselves, and improve TOT manual Number of district MP3 is implemented 80% of the course participants to express understanding and applicability 	<ol style="list-style-type: none"> Project reports and revised training manual Survey report on the use and management of the database Project reports, TOT manual 	<ul style="list-style-type: none"> * Extension system does not change drastically 	
Activities 1 Improve MP3 1-1 Follow-up PLAETS course participants 1-2 Incorporate new concepts such as farmers' organization management and better marketing skills into the training program 1-3 Revise the MP3 training manual 2 Establish and implement TOT program 2-1 Establish TOT program/plan 2-2 Implement TOT for instructors from BDAs/Districts(*) 2-3 Revise TOT manual 3 Expand MP3 to other districts (selected districts) 3-1 Disseminate MP3 improved training program to other BDAs/Districts(*) 3-2 Monitor and evaluate the training activities of the selected districts(*)	<p style="text-align: center;">Inputs</p> <p>Japanese side</p> <ol style="list-style-type: none"> Dispatch of Experts Long-term experts: 3 persons Chief Advisor Coordinator / Training Agricultural Extension <p>Short-term experts will be dispatched if necessity arises</p> <ol style="list-style-type: none"> Counterpart training Equipment <p>Indonesian side</p> <ol style="list-style-type: none"> Counterpart Project Director Project manager Counterpart / Training Counterpart / Extension <ol style="list-style-type: none"> Office for Japanese Expert Necessary facility for training Local cost (Travel allowances, etc) 	<ul style="list-style-type: none"> * Budget for conducting MP3 trainings at BBDA/BDA is allocated by Indonesian government * Facilities of selected BDAs are adequate * Coordination among BDA-Kayuambon, other BDAs and Districts is adequate 		

Note: (*) Selection of Districts will be decided based on the proposal to the project by Districts through the relevant BDAs

BDA: national Agricultural In-Service Training Center

Annex 4: Summary of Inputs from Japanese Side

(1) Dispatch of Experts

Term	Name	Field	Term
Long	Kazuhiko YAGI, Dr.	Chief Advisor	2004/01/05~2007/01/04 (24M/M)
	Izumi IIKAWA, Mr.	Agricultural Extension	2004/02/05~2007/01/04 (23M/M)
	Chiaki MAKINO, Mr.	Coordinator/Training	2004/01/05~2006/01/04 (24M/M)
	Kazuhiko YAGI, Dr.	Chief Advisor/Coordinator	2006/01/05~2007/01/04 (12M/M)
	Izumi IIKAWA, Mr.	Agricultural Extension/Training	2006/01/05~2007/01/04 (12M/M)
Short	Yoshihiko NISHIMURA, Dr.	Marketing	2004/08/01~08/28 (0.9M/M)
	Keiko ITAGAKI, Ms.	Farmers' Organization	2004/08/22~10/05 (1.5M/M)

(2) Local Cost Disbursement

Item	Abstract	Total ¹⁾ (1,000 IDR)	Share (%)
General Expenditure		1,530,869	72
Travel Cost	Experts, C/P	309,391	15
Meeting cost		19,268	1
Local Consultant	Marketing, Farmers' Organization	60,000	3
Employment	Local staff, Payments for lecturers	192,330	9
Total		2,111,858 2,534.2JPY ²⁾	100

1) Including expected amount for Year 2006, 2) Exchange rate 1 IDR = 0.012JPY

(3) Counterpart Training in Japan

	Name	Title/Affiliation	Training Title	Term
1	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	Director, BATD	Agric. Extension/ Training Administration	2004/03/15~03/26 (14d)
2	Mr. Oman Abdurachman	Trainer, BBDAH	Agric. Extension and Training	2004/12/02~12/18 (16d)
3	Mr. Duddy R. Dewayana	Director, BBDAH	Agric. Extension and Training	2005/06/20~07/03 (14d)
4	Ms. Ella Rosilawati Kosim	Head, Program and Cooperation Division	Agric. Extension/ Training and Cooperatives	2005/09/11~09/24 (14d)
5	Mr. Asep Adinata	Trainer, BBDAH	Agric. Extension and Training	2006/05/28~06/10 (14d)
6	Ms. Dewi Darmayanti	Head, Cooperation Sub-division	Agric. Extension System	2006/09/17~09/30 (14d)
7	Mr. Dadi Sumardi	Trainer, BBDAH	Agric. Extension System	2006/09/17~09/30 (14d)

Annex 4: Summary of Inputs from Japanese Side

(4) Provision of Equipment

No	Date of Provision	Description			Qty.	Unit	Sub-Total	Place of Storage	Freq. of Use ¹⁾	Condition ²⁾
		Item	Made	Model						
1	2004/Jun.	Vehicle	Toyota	Kijang LGX	2	¥1,784,500	¥3,569,000	HRD, MoA	A	A
2	2004/Jul.	Copy machine	Canon	Image Runner iR-1600	1	\$3,330	\$3,330	HRD, BDA	A	A
3	2004/Jul.	Copy machine	Canon	Image Runner iR-1600	1	\$3,832	\$3,832	BBDAH	A	A
4	2004/Jul.	Digital Camera	Canon	PS-A75	8	\$453	\$3,624	HRD, BDA	A	A
5	2004/Jul.	Desktop-PC	HP	Pavilion T588d	8	\$2,179	\$17,432	HRD, BDA	A	B
6	2004/Jul.	Printer	HP	LaseJet 1300	8	\$337	\$2,696	HRD, BDA	A	A
7	2004/Jul.	LCD Projector	Optoma	EP725	8	\$1,838	\$14,704	HRD, BDA	A	A
8	2004/Jul.	Transportation			1	\$2,097	\$2,097			
9	2006/Jan.	Notebook PC	HP-Compaq	Presario M2258	7	\$1,390	\$9,730	BDA	A	A
10	2006/Jan.	Software	MS	Office	7	\$295	\$2,065	BDA	A	A
11	2006/Jan.	Software	Norton	Antivirus	7	\$45	\$315	BDA	A	A
12	2006/Jan.	Digital Camera	Canon	PS-410	8	\$165	\$1,320	BDA	A	A

1) Frequency of Use: A-Always; B-Often; C-Sometimes 2) Condition: A-Good; B-Fair; C-Bad

2

[Handwritten signature]

Annex 5: Summary of Inputs from Indonesian Side

(1) Assignment of Counterpart Personnel

Position	Name	Title/Affiliation	Term
Project Director	Dr. Sinis Munandar	Director General, AAHRD	2004/01/05~04/30
	Mr. Suwandi	Executive Secretary (Acting DG), AAHRD	2004/05/01~09/30
	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	Director General, AAHRD	2004/10/01~2005/05/31
	Dr. Ato Suprpto	Director General, AAHRD	2005/06/01~2007/01/04
Project Manager	Dr. Soedijanto Padmowihardjo	Director, BAPT	2004/01/05~09/30
	Dr. Adolf Lucky Longdong	Director, BAPT	2004/10/01~2005/08/31
	Mr. Heri Suliyanto	Director, BAPT	2005/09/01~2007/01/04
C/P Personnel	Mr. Herry Achmad Bazuri	Head, SPTC Division, BAPT	2004/01/05~2005/11/30
	Ms. Ella Rosilawati Kosim	Head, TC Division, BAPT	2005/12/01~2007/01/04
	Ms. Ella Rosilawati Kosim	Chief, Training Cooperation	2004/01/05~2005/11/30
	Dra. Dewi Darmayanti	Chief, Training Cooperation	2005/12/01~2007/01/04
	Mr. Dikdik Diharlan	Instructor, BAPT	2005/12/01~2007/01/04
	Mr. Zahron Helmy	Extension specialist	2005/12/01~2007/01/04
	Mr. Asep Adinata	Instructor, BBDAH	2004/01/05~2007/01/04
	Mr. Oman Abdurachman	Instructor, BBDAH	2004/01/05~2007/01/04
	Mr. Dady Sumardi	Instructor, BBDAH	2004/01/05~2007/01/04
	Mr. Duddy Dewayana	Head, BBDAH-Kayuambon	2004/01/05~2005/12/31
	Drs. Suryowihardi	Head, BBDAH-Kayuambon	2006/01/01~2007/01/04

BAPT: Bureau of Agricultural Personnel Training; BATD: Bureau of Agricultural Training Development

SPTC: Scholarship Program and Training Cooperation Division; BBDAH: National In-Service Agricultural Training Center

(2) Local Cost Disbursement

Item	2004	2005	2006	Total ¹⁾ (1,000IDR)	Share (%)
Management cost	79,820.0	94,900.0	315,000.0	4,89,720.0	20
MP3 training cost (Central Gov.)		258,010.0	781,905.0	1,039,915.0	42
MP3 training cost (Local Gov.)		41,400.0	405,370.0	446,770.0	18
MP3 training cost		87,700.0	153,150.0	240,850.0	10
Manual printing cost			260,020.0	260,020.0	10
Total	79,820.0	482,010.0	1,915,445.0	2,477,275.0	100

(3) Provision of Facility, Land, Equipment

No	Description	Term	Abstract
1	Project office at AAHRD	2004/01/05~2007/01/04	
2	Project office at BBDAH	2004/01/05~2007/01/04	Moved twice
3	Official vehicle	2004/01/05~2007/01/04	3 vehicles

Annex 6: Summary of Project Activities

Activity 1: Improve MP3

Activities described in P.O.	Actual Activities	Products
<p>1.1 Follow-up PIAETS course participants (Bandung district)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Collection and confirmation of general information 2) Survey of ex-participants' activities 3) Survey of farmers 4) Analysis and compilation of survey data and result 5) Follow-up activities 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Questionnaire survey for the PIARTS participants was conducted (extension officers in Bandung district). 2) A farm survey was conducted on farmers who had received extension services from PIAETS participants. 3) Follow-up seminars were organized twice for the former PIAETS training participants. 1st seminar (18-19/May, 2004): 84 participated. 2nd seminar (1-3/Feb, 2006): 76 participated. 	<p>Report on results of the questionnaire survey for the PIARTS participants</p> <p>Reports on follow-up seminars</p>
<p>1.2 Incorporate new concepts such as farmers' organization management and better marketing skills into the training program</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Survey on Farmers' Organization and Marketing, etc 2) Analysis and compilation of survey data and result 3) Incorporation of the concepts 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Local consultants conducted surveys on marketing and farmers' organization in Bandung district (Jul. – Aug. 2004). 2) 2 short-term experts were dispatched and conducted survey, advisory work and organized seminars (Aug. – Oct. 2004). 3) MP3 trainings were conducted reflected on the survey results and recommendations from short-term. 	<p>Survey reports by local consultants</p> <p>Reports by short-term experts</p> <p>Farm survey reports</p> <p>Reports on the MP3 trainings</p>
<p>1.3 Revise the MP3 training manual</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Revise training curriculum, material and manual 2) Construct and manage database of advanced farming cases 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Training manuals were revised by incorporating results from the Farm Survey, recommendations from JICA short-term experts and the MAT supervisory teams. 2) Database (DB) of advanced farm management identified by extension officers in Bandung and 4 target districts where the MP3 training was conducted in 2005 and 2006 were compiled and distributed. 	<p>4 types of MP3 revised manuals</p> <p>Database (DB) of advanced farm management</p>

Activity 2: Establish and implement TOT program

Activities described in P.O.	Actual Activities	Products
<p>2-1. Establish TOT program/plan</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Implement trial TOT 2) Collection and analysis of information 3) Review of existing TOT curriculum and manual 4) Formulation of TOT implementation plan 	<ol style="list-style-type: none"> 1) A trial TOT was conducted at Kayuambon BBDA (Jun. 28 – Jul. 8, 2004). 2) TOT curriculum and manual for the instructors were revised. 3) A TOT implementation plan was formulated. 	<p>Revised TOT curriculum and manual</p>

N

Annex 6: Summary of Project Activities

Activities described in P.O.	Actual Activities	Products
2-2. Implement TOT for instructors from BDA/Districts	<ol style="list-style-type: none"> 1) Conducted TOT for 28 instructors of 7 BBDA/BDAs (2 from HQ) (Feb. 21 – Mar. 11, 2005) 2) Conducted TOT for 28 instructors of 7 BBDA/BDAs 3) Indonesian C/Ps have conducted a TOT in 2006 for instructors of Jambi BDA with their own resources. 	Reports on the TOT/MP3 implementation
2-3. Revise the TOT manual	<ol style="list-style-type: none"> 1) The TOT manual was revised reflected on reviews. 	2 types of Revised TOT manuals

Activity 3: Expand MP3 to other districts (selected districts)

Activities described in P.O.	Actual Activities	Products
3-1. Disseminate MP3 improved training program <ol style="list-style-type: none"> 1) Survey of BBDA/BDAs and explain project activitiesMP3 2) Preparation and formulation of proposals and selection criteria 3) Expose MP3 to districts through BBDA/BDA 4) Selection of BDAs/Districts 5) Collection and analysis of information of selected districts 6) Guidance to formulate and implement MP3 program for the selected districts 7) Support to establish MP3 training program at other districts 	<ol style="list-style-type: none"> 1) The approach to select target districts was changed from districts self-proposal system to BBDA/BDA appointing system due to lack of awareness of the MP3 methods. 2) MP3 socializations for district authorities and BBDA/BDAs' directors were conducted. 3) Posters, calendars, diaries were produced for the socializations. 4) BBDA/BDAs's instructors conducted MPs trainings for extension officers in 7 districts (3 in 2005, 4 in 2006) 5) 3 MP3 trainings were held using Indonesian own resources. 	Reports on the MP3 trainings in 7 districts Post-training evaluation reports
3-2. Monitor and evaluate training activities in the selected districts <ol style="list-style-type: none"> 1) Survey of extension activities by participants 2) Analysis, compilation and countermeasures 	<ol style="list-style-type: none"> 1) Post –training evaluation surveys were conducted for the extension officers in 3 districts. 2) MAT supervisory activities- Subang (May-Aug. 2005); Kupan (Jul.-Oct. 2005); Gowa (Jul.-Nov. 2005); Binuang (Feb. 2006); Cinagara (Feb. 2006) 3) Reports on MAT activities were produced. 	

2

Annex 7: Results of Evaluation Questionnaire

- 1) "Mean Scores" are shown between 0 and 4 that were calculated based on the results of the evaluation questionnaire answered by 25 respondents, using the following formula:

$$\text{Mean Score} = \frac{[(n_0 \times 0) + (n_1 \times 1) + (n_2 \times 2) + (n_3 \times 3) + (n_4 \times 4)]}{(n_0 + n_1 + n_2 + n_3 + n_4)}$$

- 2) Items with higher scores meant that higher number of respondents had agreed on the statements in the questionnaire (Annex) with the higher degree, which indicated better evaluation results on those evaluation items (except some statements indicating negative states, e.g. "Influence of unexpected constraints").
- 3) "Experts" included two long-term experts engaged in the project from the beginning to the end.
- 4) "C/P" respondents included Project Director (Director of AAHRD), Manager (Head of BATC), Head of BBDA-Kayuambon.
- 5) Respondents of the BBDA/BDAs were the instructors who had attended the TOT and conducted MP3 training for extension officers in the respective districts.

(1) Project implementation process

Evaluation Items and Viewpoints		Mean Score ¹⁾		
Items	Viewpoints	Experts ²⁾ (2)	C/Ps ³⁾ (10)	BBDA/BDAs ⁴⁾ (13)
Progress of Inputs and Activities	Degree of progress against the planned inputs and activities	3.50	3.70	3.10
Project Management System	Monitoring	3.00	3.80	3.46
	Review of project plan (PDM/PO)	4.00	3.70	2.92
	Internal communication/Information sharing	2.50	3.80	3.08
	Function of regular meetings and JCCs	3.50	3.60	3.25
	Communication between Project & JICA office	2.00	3.30	3.33
Ownership of the Project	Participation of Indonesian staff	2.50	3.50	2.92
	Financial allocation from Indonesian side	3.00	3.60	3.15
Collaboration with Other Projects	Level of collaboration with other projects	3.50	3.11	2.90
Factors Affecting the Implementation Process	Influence of restructuring/ shuffling of MOA/AAHRD	3.00	3.40	2.00
	Influence of unpredictable constraints	3.00	1.78	2.54

(2) "Relevance"

Evaluation Items and Viewpoints		Mean Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
Relevance to Local Needs	Relevance to the needs of MOA, AAHRD and BBDA/BDAs	3.00	3.70	3.45
	Relevance to the needs of the target group	3.50	3.70	3.38
Consistency with government policies (Indonesia/Japan)	Consistency with national development plan/policy of Indonesian government	3.00	3.40	3.23
	Consistency with Japanese assistant policy	3.50	3.40	2.90
Appropriateness of Project Approach	Appropriateness of the approach that the Project took	3.00	3.80	3.15
	Appropriateness of selection of the target areas and project site	3.50	3.30	3.23
	Appropriateness of selection of the target group	3.50	3.10	3.00

Annex 7: Results of Evaluation Questionnaire

Evaluation Items and Viewpoints		Mean Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
	Prospected multiplier effects of the project benefits beyond the target group	4.00	3.60	3.23
	Comparative advantage of the Japanese technology or experience	2.50	3.30	3.15
Overall Result on Relevance (Average of Mean Score)		3.05	3.39	2.97

(3) "Effectiveness"

Evaluation Items and Viewpoints		Evaluation Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
Achievement of Project Purpose	Achievement level of Project Purpose	4.00	3.30	3.46
Achievement of Expected Outputs	Achievement level of the Output 1	4.00	3.50	3.31
	Achievement level of the Output 2	4.00	3.70	3.54
	Achievement level of the Output 3	4.00	3.30	3.42
	Contribution level of three outputs towards the realization of the Project Purpose	3.50	3.50	3.54
Effects of External Factors	Influence of assumptions from Outputs level to Project Purpose level	2.50	3.11	3.50
	Positive effects of unexpected external factors	2.50	2.80	3.23
	Negative effects of unexpected external factors	2.50	2.00	3.18

(4) "Efficiency"

Evaluation Items and Viewpoints		Evaluation Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
Contribution of Activities	Sufficiency of activities to realize expected Outputs	3.00	3.50	3.15
Appropriateness of Inputs by Japanese Side	Dispatch of Japanese experts (number, expertise, length and timing)	3.50	3.30	3.08
	Provision of equipment	3.50	3.60	3.00
	Training of C/Ps in Japan	4.00	3.30	3.13
	Relevance of C/P training contents to the Project	3.50	3.20	3.08
	Local cost support (amount, use, timing)	2.50	3.20	2.92
Appropriateness of Inputs by Indonesian Side	Assignment of C/P staff (number, position and competency)	2.50	3.10	3.23
	Provision of facilities and equipment (size, quality and convenience for use) provided	3.00	3.50	3.08
	Local cost (amount, timing)	3.00	3.70	3.25
Cost Effectiveness	Appropriateness of total cost against type of outputs and number of beneficiaries	3.00	3.20	3.17
	Appropriateness of the Project period (3 years) against outputs and number of beneficiaries	3.00	3.10	3.00
Effects of Preconditions and External Factors	Influence of the first precondition	3.00	3.30	3.15
	Influence of the second precondition	3.50	3.30	3.23
	Influence of the third precondition	3.00	3.10	2.33
	Influence of unexpected external factors	3.00	2.30	3.15

(5) "Impact"

Evaluation Items and Viewpoints		Evaluation Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
Impact on Overall Goal	Probability of Overall Goal to be achieved	3.00	3.40	3.31
Effects of External Factors	Compatibility of Overall Goal and Project Purpose (in the Project Design)	3.00	3.10	3.31
	Fulfillment of the first assumption	4.00	3.00	3.46
	Fulfillment of the second assumption	4.00	3.40	3.08
Multiplied Effects	Influence of unexpected external factors	4.00	2.50	3.31
	Unexpected positive impacts on policy, system, socio-economic conditions and technology	3.50	3.10	3.18
	Unexpected negative impacts on policy, system, socio-economic conditions and technology	0.00	3.00	3.13

(6) "Sustainability"

Evaluation Items and Viewpoints		Evaluation Score		
Items	Viewpoints	Experts (2)	C/Ps (10)	BBDA/BDAs (13)
Institutional Aspect	Level of prospective institutional sustainability	4.00	3.70	3.42
Financial Aspect	Level of prospective financial sustainability	4.00	3.50	3.13
Organizational Aspect	Level of prospective organizational sustainability	4.00	3.50	3.23
Technical Aspect	Acceptance of MP3 by the target group	4.00	3.80	3.50
	Further development of the MP3 methodology by BBDA/BDAs	4.00	3.90	3.25
	Dissemination of the improved MP3 methodology to other BBDA/BDAs	4.00	3.90	3.10
Overall Sustainability	Overall level of prospective sustainability	4.00	3.60	3.08
Overall Evaluation on Sustainability (Average evaluation score)		4.00	3.70	3.24